

平成27年度
自己点検・評価報告書
(抜粋)

鎌倉女子大学 中等部・高等部

第1章 中等部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を基盤として新たに策定した教育目標「自己の感性や価値を高め続け社会で活躍できる女性を育てる」を、各種教育活動全般に十分反映させ、さらなる浸透を図る。 ・教育目標実現のために身につけさせたい3つの力「実践力・思考力・共生力」を授業、学校行事等の中に明確に位置付け、教職員が日々行う教育活動において絶えず意識できるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、管理職、各分掌主任等で時間をかけて策定した目標であるため、一定の理解・浸透は進んでいたが、平成27年度はさらに、学校説明会や学校案内パンフレット等で建学の精神と併せて教育目標として明確に位置付けたために、教職員全体の意識化が推進された。 ・「実践力・思考力・共生力」については、職員室に掲示して可視化することから始め、さらに、学年の校外行事などで取組目標にするなど、生徒にも伝える形で明確にされてきている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神は、豊かな人間性の育成に欠かせないものであり、一方、教育目標は、今日的な課題に対応する各種スキル（ICT、英語、コミュニケーション等）の育成を内包しているものであり、この2つを車の両輪とした学校運営体制をより一層明確に示していく必要がある。

1-②	・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	・4月1日に部長から全職員に提示する「取組方針」の中に「計画的な塾訪問」「前例踏襲の徹底的な見直し」等の項目を示し、短期的に解決していく目標とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施した全教員による「計画的な塾訪問」は、学校全体で生徒募集に当たるという意識を持たせる意味で有効であった。 ・「前例踏襲の徹底的な見直し」に関しては、職員の受け止めにかかなりの温度差が見られ、十分な徹底には至らず、継続的な取組が必要である。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「取組方針」に短期的な目標を示すことは、職員の意識改革としては有効であるが、継続性という観点から見ると、やや単発的なものとなりやすい。したがって、今後、短期目標としての在り方については改善していく必要がある。 ・中期的な目標については、進路指導部など、分掌によっては、数値目標も含めて、定めている分掌もあるが、全体のものとしての共有化を図っていく必要がある。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の感性や価値を高めるため、建学の精神に基づいた学級運営、行事、授業を行う。 ・社会で活躍できる女性として必要な、「実践力」「思考力」「共生力」を高めていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やみどり祭などにおいて、実行委員が活躍する機会が増えてきて、行事が活性化してきた。 ・校外行事では現地集合を基本とし、生徒自ら行き方を調べ行動できるようになった。 ・行事や授業において各教員が「実践力」「思考力」「共生力」を高めるように意識するようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学級での指導を充実させるため、学級での朝礼のあり方を見直す必要がある。朝礼の時間に生徒の様子をよく観察し、コミュニケーションをとることが重要である。また、集中させて物事に取り組ませることも、1時間目からの授業の効果を上げるのに役立つであろう。 ・学校行事では、生徒が主体的に動けるように計画し、教員がサポートにまわる必要がある。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の担当者は、4月の初めに年間学習指導計画書を作成して、スーパーバイザーや次長、部長に提出をする。 ・各学年団では、4月の初めに年間の道徳や総合的な学習の時間、ロングホームルームの計画を立てる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画書は、4月の初め以外に、各学期の初めに「生徒に身につけさせたい力」を記入し、学期の終わりに「自己評価」や「今後の課題と対策」を記入して提出することで、授業改善に努めている。 ・各学年ごとに調査の方法を学び、鎌倉や修学旅行先などを調べて、みどり祭で発表している。また、学年集会を開き、班ごとのプレゼンテーションを行い、表現力を高めている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者によって計画が変更することもあるが、今後は年間指導計画書とシラバスの関連を強化していく必要がある。 ・中高一貫教育の利点を生かし、生徒が主体的に活躍できるように、学年ごとの取組ではなく、組織的かつ中高の一体感をもった取組を行う必要がある。

2-③	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、社会、数学、理科、英語の授業時間数を文部科学省の標準時間より充実させて、基礎学力を高めていく。 ・管理職やスーパーバイザーによる授業参観や教員同士の相互参観（公開授業）を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省の標準時間と比較して、国語で約1.6倍、数学で約1.4倍、英語で約1.6倍、理科で約1.1倍、社会で1.2倍の授業時間数を設定している。特に、国語、数学、英語を重視している。 ・年に2回、2週間の授業を、中・高等部の教員と初等部の教員に公開している。また、保護者対象の授業参観や受験生対象の公開授業も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時の学力不足による「中1ショック」に対して、1学期の初めは小学校の復習を行い、中学の内容に適応させる必要がある。 ・教員同士の相互参観の充実を図るため、教科主任会議の議題としたい。 ・平成28年度は、「付属校サミット」にて他校の教員に対して研究授業を行うため、今後の公開授業のあり方の参考にしたい。

2-④	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学年やコース、各教科など生徒個々の学習状況に鑑み、適切な評価基準を設定する。 ・客観性と公平性を十分に担保した上で、評価する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語以外の教科は「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4観点で行っている。 ・国語においては、「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解・技能」の5観点で行っている。 ・各教科とも、観点ごとに5段階評価を行い、それに基づき科目ごとの5段階評定を算出する。なお、生徒・保護者への観点別評価の報告は3段階で行う。 ・観点別5段階評価は、学習目標への達成度に対して評価する。 5……目標を上回る成果を得たもののうち、特に程度の高いもの 4……目標を上回る成果を得たもの 3……目標をほぼ達成したもの 2……目標達成にいつもの努力を要するもの 1……目標達成の意志が見うけられなかったもの ・各教科で観点別評価を行う上で、グループワークや実験実習、実技試験などを実施して、各観点の達成度を測るほか、定期試験の作問においても、各観点の達成度を測れるように作問を工夫している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・5段階評定を定めるとき、定期試験での点数と授業の平常点から算出した評定と、観点別評価に基づいた評定が異なることが生じる。学力向上のためには、国語、社会、数学、理科、英語では、定期試験の価値を高める必要がある。 ・現在の公立学校と同じ方式では、「AAAA」で4が付くことがある反面、「AAAB」で5が付くことが生じる。生徒や保護者にとって分かりにくいいため、本校独自の方式も検討する必要がある。

3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週6日制の実施による授業日数の増加を有効に活用する。 ・従来型の授業スタイルに固執することなく、生徒主体型授業を導入するなど、より学習内容が身に付くよう生徒の指導にあたる。 ・中高6年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて過年度の学習内容を含めたり、学習内容をより充実する観点から教科書外の内容に言及したりし、基礎学力の定着と学力向上を図った。 ・アクティブラーニングの手法を導入するなど、教科の特性に応じた学習指導方法を取り、生徒の活発な発言など授業の活性化が認められた。 ・従来の板書による授業やプリント学習に加え、電子黒板の活用など、わかりやすい授業を目指した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校時代の学習内容が十分身につけていない生徒が多数在籍している現状が明らかになった。そのため学習支援センターの活用以外にも、過去の復習を取り入れた授業や補習など、基礎基本を身に付ける機会を設けることを検討する。 ・従来型の講義形式に比べて、生徒主体型による授業は生徒の授業への参加意識が高く、学んだ内容の認識度が良いため、より多くの授業で取り入れるよう努める。 ・これまでも生徒の興味関心をかきたてる授業を目指してきたが、3年後、6年後を見据えて幅広い知識が修得できる授業に努める。

3-②	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立を図る。 生徒の現在の学力の把握に努め、生徒が学習内容をしっかり理解できるよう授業方法の工夫を図る。 各種検定試験の目標級の取得を目指す。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を確立させるため、宿題などにより家庭学習を促した。 基礎力テストによる診断のほか、日々の小テストにより基礎力を測った。英単語などは繰り返し行うことで、徐々にではあるが成果のでてきた生徒も見られた。 検定試験の受検を奨励した。その結果、平成26年度に比べ多くの生徒が受検した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習習慣はあまり改善されていない。宿題の未提出者を少なくする対策として、できるまで取り組ませる指導をいっそう充実させる。 学習習慣の確立には家庭学習の励行が欠かせない。生活習慣の確立とも密接にかかわるため、保護者に対し家庭での学習の取組に関していっそうの協力を求める。 各種検定試験などの目標級の取得のために、これまで以上にPDCAサイクルを意識した取組を行う。

3-③	<ul style="list-style-type: none"> ・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心の授業から、生徒主体の授業への転換を図る。 ・知識中心の授業から、考える授業への転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の活用をはじめ、従来型の授業からの工夫をはかり、生徒への学習意欲の向上を図った。 ・机の配列や図書館の活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取組を行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業目標や進度を踏まえ、限られた時間のなかでの生徒主体型授業の工夫を継続して行っていく。 ・生徒の学習意欲向上のため、常に学習教材の精選と活用を心がけ、授業の組み立てについて研究を続ける。

3-④	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やタブレット等の新しい機材を、各教員が使いこなせるようになる。 ・活用事例や講習を参考に、授業に積極的に導入していく。 ・最終的に、活用事例とその結果を教科で共有し、本校において効果的な活用を蓄積していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や情報処理室の講習会も行われ、多くの教員が積極的に参加した。また、アクティブラーニングを含め、ICT関連の講習会への関心も高まっている。 ・電子黒板の導入により、資料の提示・動画やインターネットの活用等を反映させた授業は平成26年度に比べ大幅に増加した。 ・タブレットに関しては、まだ使用頻度は少ないが、徐々に活用の場も増え、その有効性は確認されつつある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に、本校における効果的な活用事例を蓄積することは、一朝一夕にできるものではない。まずはICTを意識した授業を少しでも多く実行し、教科内で情報の共有を図ることが必要であると考えます。 ・タブレットに関しては、早急に使用マニュアルを作成し、積極的に使用していける環境を整備したい。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間国語の時間を「読書の時間」とし、図書室で国語科教諭が授業を行う。司書教諭は補助を行う。（3年生特進は、「卒論の時間」） ・「読書の時間」を利用して、新1年生に図書室ガイダンスを行う。 ・「読書の時間」を利用して、各学年で毎月「学年対抗図書紹介」を行う。 ・授業利用以外の本、主に読み物を多く選書する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期については、1年生はPOP作り、2年生は読書郵便・読書感想文、3年生はPOP作りを行った。 ・2学期については、1年生・2年生は生徒のグループ同士で本の読み聞かせ、2年生は読書感想文、3年生は読書スピーチを行った。 ・3学期については、1年生は読書感想文、2年生は百人一首・硬筆、3年生進学コースは読書感想文、3年生特進は、1年間かけて卒論を書いた。 ・1学期の作品は、みどり祭で展示した。3年生特進が国語授業で図書室資料を利用して作った「奥のほそみちすごろく」なども展示した。 ・「学年対抗図書紹介」は、ほぼ毎月掲示でき、各クラスにも掲示してもらった。先生方にも関心を持ってもらい、紹介された本を探しに来る生徒も多かった。 ・2年生の「朝の読書」に図書室として協力した。 ・授業利用以外の読み物については、生徒・教員の希望も取り入れつつ選書できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部全クラスでの「読書の時間」の初年度であり、準備など混乱もあったため、次年度は、計画的に授業ができるよう準備したい。 ・生徒によって、読書力に差があるため、広い範囲の本を集める必要がある。 ・次年度からは、中等部全体で「朝の読書」が始まるため、選書や生徒への本の紹介など協力したい。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業において、従来のような教員の一方的な講義形式の「教わる学習」から、「自ら学ぶ学習」への転換を図る。 ・各教科の授業ではグループごとに課題に取り組みせたり、討論の場を設け発表させる等して、生徒が抱いた興味・関心がその後の自主的な学習につながっていくようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業において、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。 ・グループ討議などは慣れない生徒もいるため配慮することも必要であったが、回数を重ねるにつれ、自ら考えたことを自分の言葉で表現することができるようになっていった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学びの姿勢が能動的になったと見受けられる部分はある反面、教科書の内容をこなさなければならないことを考えると、時間が足りない現状がある。 ・自らの気づきによる学びという基本的な考え方の下、1つの授業時間のなかで講義、質問、グループ討議など様々な授業形態を複合させるなどの工夫をしていきたい。

3-⑦	・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身につけ、感動や達成感が味わえるようにする。 ・生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、対処できるよう準備することを整理しておく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭や卒業生を送る会などの学内行事では、各実行委員が担当教員と連携を図り、リーダーシップをとることで、生徒主体の有志企画が年々充実してきている。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。 ・宿泊等の学外行事では、自然災害時の対応、最寄りの医療機関等を事前に保護者に示し、健康状態の調査を行うなどして安全を第一に実施することができた。また、行程は数か月前から業者と打ち合わせを重ね、時間的に余裕を持った見学や体験活動ができるよう計画している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も更に生徒の安全には注意を払い、様々な側面から考え、細かく計画していく必要がある。 ・本校の良さを残しながらも、より生徒主体での行事運営ができるよう、新しいことにも積極的に挑戦する姿勢を持つ。 ・新たな取組である「KAMAKURA BEYOND PROJECT」（以下「KBP」）について、委員会に時間をかけて、魅力あるものになるよう準備を進めていく。

3-⑧	・生徒会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。 ・保健体育委員会では、保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。 ・文化委員会では、「学校新聞」の発行を行う。 ・美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。 ・ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。 ・運動会実行委員会では、運動会の企画・運営を行う。 ・みどり祭実行委員会では、みどり祭の企画・運営を行う。 ・合唱コンクール実行委員会では、合唱コンクールの企画・運営を行う。 ・卒業生を送る会実行委員会では、卒業生を送る会の企画・運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員会では、4月16日に新入生歓迎会を行った。 ・保健体育委員会では、9月1日に学級委員会と合同で「全校球技大会」を企画したが、雨天のため中止となった。 ・文化委員会では、1学期末及び3学期末に「学校新聞」を発行することができた。 ・美化委員会では、清掃点検を行って校内の美化を促進した。また、校内外の花壇の整備を行った。 ・ボランティア委員会では、あしなが学生募金活動への参加、ペットボトルキャップ回収、青少年健全育成推進街頭キャンペーンへの参加、赤い羽根共同募金運動への参加等、様々な活動に参加した。 ・各実行委員会では、5月16日運動会、9月12、13日みどり祭、1月26日合唱コンクール、2月18日卒業生を送る会を実施し、成功させた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動は学期に一度のペースでしか行われていないため、大きな活動を行う場合、どうしても教員主導になってしまう。改善策として委員に関しては、前後期制をとり、活動期間を長く設定し、生徒主体の活動に発展させていく。 ・各実行委員会については、大部分において教員主導から生徒主導へ移行できたと考えられる。今後も更に生徒が主体的に活動できる場を増やしていきたい。

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。 ・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前にまとめ、まずは事故が起きない工夫をし、万が一のときには速やかに安全対策や治療への対処ができる準備を整える。 ・安全に楽しく活動できるように、活動時間や活動場所、活動内容を定める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「校友会・事故防止のための安全対策」を校友会各部で作成し、安全や事故防止に配慮して活動できるようにしている。また、万が一事故などが起きた時には、速やかに対処できるような準備をしている。 ・校友会ごとに週休日を設け、体力面・学習面・安全面に留意して活動を行っているため、大きな事故を起こさずに活動することができている。 ・活動中は、できる限り顧問が監督し、安全に留意して活動できるような工夫をしている。職員会議時など、職員不在時は、活動内容を工夫し安全性の高いものを行うか、活動自体を自粛している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、事故を防止するために横のつながりや生徒の自発性を高めて、より安全に活動できるようにすべきである。そのなかで、備品が壊れた場合は、放置してあることで二次災害の危険性もあるため、修理若しくは廃棄を速やかに行う。 ・できるだけ活動中に顧問が監督できるようにしているが、公務の都合などにより顧問不在の場合もある。その際は、活動場所が同じ別の校友会顧問と協力をし、万が一の際などには速やかに対処・連絡が取れるように工夫しているが、できる限りイレギュラーのないようにする必要がある。 ・中・高等部の組織として、部活動を教育活動の一部という認識を教員が持ち、生徒の実践力・思考力・共生力を育むために、できるだけ協力する雰囲気を作っていく。

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々のわからない内容に対応する個別指導、授業フォローを学習支援センターにて実施し学力の底上げを図る。 ・定期試験前対策講座、英検対策講座、各教科で実施された小テストの再試などを学習支援センターで実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験前対策講座、英検対策講座については概ね計画どおりに実施できた。 ・小テストや英単語テストの再試については人数が多すぎてしまうこともあったが、放課後の再試があることで、生徒が単語を暗記する努力をするようになったこと等、学習効果も表れている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターについては、平成27年度より運用開始した。今後、個別指導、授業フォローにおいては十分に機能できるよう検討していく。 ・生徒それぞれがつまづいている分野や単元に対応できる個別指導に加え、その都度授業時のフォローができるようになると良いと思われる。 ・定期試験前対策講座等は教員が行っているものもあるため、学習支援センター主催の講座とすみ分ける必要がある。

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部1年進学コースの1組は2人担任制をとり、きめ細かな学級運営にあたることができるように配慮する。 ・理科における実験・観察においては安全を第一に、教科担当の他に実験助手が付きチームティーチングで実験・観察指導にあたる。 ・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に英語科担当が付き、授業の進度や生徒の理解度に合わせて英語科担当がフォローに入るようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部1年進学コース1組の2人担任制においては、役割分担という形はあえてとることなく、常に2人で全体を把握しながら指導に当たることを心がけた。 ・理科の実験・観察においては各班や個々の実験進度に応じて、授業担当者だけでは見きれない部分を実験助手がサポートに入ることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。 ・英会話ではチームティーチングの形態での授業を以前から行っており、授業の進め方などは英語科のなかで確立されつつあり、学習効果は上がっている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部1年進学コースにおいて2人担任制を初めて試みたが、個々の生徒に目が行き届くという反面、保護者からはどちらの担任に相談すべきかという意見がある。 ・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは概ね良い成果がでているため、今後も同様の授業形態で行っていく。

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。 ・小中連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、初等部、中・高等部において行事や授業等の機会を通して可能な範囲で共に取り組む。 ・幼稚部と中等部では、みどり祭での補助をはじめ、中等部2年の家庭科の授業において連携を図る。 ・初等部と中等部では入試広報関係を強化し、初等部に中等部をより詳しく知ってもらう企画を実施する他、授業においても連携を図る。 ・中等部、高等部においてはそれぞれの発達段階を踏まえ、教科では中等部での学びが高等部につながるように配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせたうえで上級学年につなげる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度も中等部2年生が、家庭科の保育内容を実践的に学ぶための園児とのふれあい体験を幼稚部の協力を得て実施した。さらにマーチングバンド部が幼稚部の運動会で演奏・演技を披露した他、高等部3年生が教養美術の授業で制作した自主教材を使って幼稚部の園児とふれあうお楽しみ企画を実施し、実践的な学びを得ることができた。 ・初等部とは、入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した他、中等部1年担当教員と初等部6年担当教員との間で中等部1年に進学する生徒に関する申し送りの機会を設けた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭が別日程になったこともあり、平成26年度まで行われていたバスケットボール部や児童文化部と初等部生との交流がなくなってしまったことが課題である。昨年まではバスケットボール部の初・中・高の混合チームでのミニゲームが保護者に好評であった他、児童文化部では人形劇を観劇してくれた初等部2年生にクリスマスカードを届ける交流も行っていった。できればどのような時期に復活できるかを検討したい。

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいて大学と中等部が連携を図る。 ・みどり祭において大学の学友会と中等部の校友会との連携を図る。 ・大学の教員が、中等部の生徒に専門的な学びの内容を話す機会を設ける。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては予定どおり連携することができた。 ・大学のみどり祭においてマーチングバンド部とフェアリーコンサート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭ではフラダンス等いくつかの学友会が演奏・演技を披露し、会場が盛り上がった。 ・中等部の卒業記念講演を平成26年度から見送った関係で、大学の教員の講話を聞く機会は平成27年度に関してはなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習における学生の評価については、情報を共有し報告をする過程を通してより連携を図る必要がある。 ・みどり祭での交流は引き続き学友会と調整して継続していきたい。 ・平成26年度は大船キャンパスのビオトープや東山見学の際、教育学科の教員に説明を受ける機会があったが、平成27年度は中等部の生徒が大学の教員から話を聞く機会は一度もなかったため、どのような形で中等部が大学と連携できるかを考えた。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みを発見し、意識しながら学校生活を送ることができるようにする。 ・生徒が所属集団のなかで、どのような役割を担うことができるか発見し、意識することができるようになる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動やLHRでの班別活動など校内活動において、活動後の振り返りを通じて、生徒自身が自らの強みを発見できるように取り組んだ。その結果、低学年は自らの強みを意識することの必要性を理解し、高学年では自らの強みを生かした学級活動や校外学習における活動ができるようになった。 ・学校行事やチームビルディングを意識した活動を通じて、与えられた役割を経験し、役割適性を意識したり、活動の振り返りを通じて名称として与えられない役割を発見する取組を行った。その結果、自分自身に多くの役割があることが発見でき、高等部におけるキャリア教育の土台を構築することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後の振り返り方法が様々であるため、振り返り項目として最低限盛り込むべき内容を統一する必要がある。 ・効果測定の方法が確立していないため、「強みの発見・意識・活用」や「役割の発見・意識」について、ループリック評価票を作成して、組織的に生徒の伸長を把握できるようにする。

4-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みと社会のニーズの比較をすることで、どのような形で社会に貢献できるか考えさせる。 ・中学校における学びが、社会で必要とされる思考のフレームの基盤となっていることを理解させる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、中学生による職場体験が生徒の進路選択を狭めるという報告があるため、職場体験や就業体験は高等部での取組としている。 ・チームビルディングに関する活動を通じて、チームや組織として活動する際に必要とされるスキルや心構えに触れる取組を行った。その結果、コミュニケーション能力の必要性や、自己受容・他者受容の必要性を理解することができた。 ・通常の授業で扱っている内容が、思考のフレームであることを生徒に意識させ、社会で必要とされる思考のフレームであることを伝える取組を行う教科も出てきた。その結果、生徒の授業に対する価値観に変化が生じてきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じてキャリア教育を行うことがまだ浸透していないため、どのような方法を行うことで授業にキャリア教育を取り入れることができるかも含め、情報提供を行っていく必要がある。 ・生徒の進路選択の幅を狭めることがないような、社会体験の場を設定する必要がある。これについては、総合的な学習の時間で次年度以降取り組む、「KBP」のなかで実施が可能と思われる。 ・思考のフレームの体系的な指導方法の検討が必要である。

4-③	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談、三者面談による情報収集と、生徒への助言・指導を行う。 清掃活動などの日常の学校生活のなかで、生徒の強みや適した役割を把握し、進路学習時に活用する。 模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルなどの指導・助言を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談において、生徒とのコミュニケーションを通じて、コミュニケーションスキルや思考の癖、興味の方向性を把握した。その結果、思考の癖や興味の方向性を考慮した進路学習のきっかけを作ることができた。 三者面談において、保護者の進路意識や進路知識を把握した。その結果、生徒と保護者の進路意識の比較をすることができ、生徒の進路意識を保護者と共有することができた。 模擬試験の帳票を返却する際や授業などで、学習に関する目標設定の方法や学習スキルの指導を行った。その結果、生徒の学習スキルに対する意識の変化があり、目標設定に対する必要性を感じ始めるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適性の把握は個別に行う必要があるが、二者面談や三者面談に充当できる時間の確保が難しい状況である。部活動と面談の時間バランスを検討する必要がある。 中等部生の保護者の進路知識に偏りが見られるため、中等部段階からも進路情報を適宜提供していく必要がある。ただし、現1年生、2年生では大学入試で大きな変革が予定されており、また、各大学の対応も不透明なため、慎重に情報提供していく必要がある。

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談を利用した構成的な進路学習やキャリア学習に関する指導と、学校行事や清掃の時間を利用した非構成的なキャリア学習相談を行う。 ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルについては、進路指導主任がキャリア教育学会認定のキャリア・カウンセラー資格を取得し、研修会等で収集した情報を必要に応じて教員に伝達する。 <p>※中等部からは原則全員が高等部に進学するため、進学指導的な要素は行わない。</p>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的な進路学習やキャリア学習に関する指導では、進路学習に関する方法の指導とキャリア学習に関する方向性と考え方の相談を行った。その結果、上級学年の生徒に、自らのキャリアデザインを意識した学習態度や発言が見られるようになった。 ・非構成的なキャリア学習相談では、行事や清掃時の様子から生徒の強みや適性の高い役割を把握し、これらを生かしたキャリアデザインの考え方のヒントを、日常会話の中に盛り込んでいった。この結果、二者面談で構成的な進路学習やキャリア学習に関する話題を円滑に話し合うことができた。 ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルに関する情報提供は、基本的にキャリア・カウンセリングに苦慮する教員からの相談を受ける形で行った。その結果、教員が苦慮している状況に即した情報提供を行うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的な進路学習やキャリア学習に関する指導を行った際の効果測定方法を検討する必要がある。特に、どのような内容の面談を行うと効果的であるかの検証を行っていきたい。 ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルの情報提供の組織的な運営を検討すべきである。

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する情報発信は、教室の掲示板を利用して行っている。 ・キャリア学習に関する相談について進路相談室を利用して行う。 ・キャリア学習が進んでいる生徒に対しては、自習室を開放して、将来の進学に向けた準備ができるようにしている。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学年の教室に、大学の合同説明会や体験学習を伴うオープンキャンパス情報を掲示して、体験を通じたキャリア意識の育成を促している。その結果、高等学校や大学での学びと社会との結びつきを意識するようになった。 ・キャリア学習が進んでキャリアデザインが固まりつつある生徒には、大学受験を意識した学習を自習室で行わせ、受験を間近にした高等部生をロールモデルとして、意識できるようにした。その結果、学習習慣の確立だけでなくPDCAサイクルを意識した学習ができる生徒が出てきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の強みの認識や役割意識を高める取組を促進する設備整備ができていないため、今後、どのような設備が意識促進に資するか検討する必要がある。 ・キャリア意識の高い生徒を見つけ出し、自習室の利用を促す組織的な仕組みを作る必要を感じるが、中等部生が利用することに対する、高等部生の反応を見ながらの運営が必要なため、検討事項としたい。

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議において、各学年の生徒状況を報告する機会を設け、理解し、対応できるようにする。 ・生徒指導部からの細かい生徒指導に関する事案をリアルタイムに連絡し、各学年で対応が取れるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議において、各学年から生徒状況の報告が実施されるようになり、指導が必要な生徒に対して、教職員全体で理解し、対応できるようになった。 ・学校グループウェアの導入によって、生徒指導部からの生徒に対する注意事項等の連絡がスムーズになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導が必要な生徒の状況についての理解を共有することはできているが、細かい事象の記録と共有が各担任・各学年任せになっている。すべてのことを共有する必要はないかもしれないが、その線引きについて検討が必要である。 ・原則として、生徒指導事案は各担任等から学年主任、そこから生徒指導部へという手順をイメージしているが、時折、学年主任を飛び越えての報告・連絡があり、場合によっては学年主任が知らないというケースもある。約束事としては周知のことであるため、学年主任への報告・連絡の徹底を進めたい。

5-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。 ・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの生活状況の共有を行い、生徒の心理的な変化に迅速に対応する。 ・学年単位、学校単位で生徒の心のケアを行う体制を整える。 ・報告、連絡、相談の徹底で、学校全体で、欠席が増えた生徒を学校に迎えやすい環境を整える。 ・生徒が教育相談室を利用しやすくなる雰囲気を作るため、職員室との連絡体制をより緊密なものとし、教員が積極的に相談するようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼で生徒一人ひとりの様子を見る時間が増え、声かけも多くなった。 ・学年単位で情報の共有がされ、スーパーバイザーの協力も大きかった。 ・学級状況の報告が簡略化・合理化されたことで、生徒に目を配る時間や余裕が増えた。その分、担任一人ひとりがクラス運営・管理の記録を各自行う必要がある。 ・カウンセラーまで事案を進めることなく、学年や保健室の協力で生徒への対応ができた。 ・学年主任が担任を持たないことで全体を見渡し、情報の集約ができた。 ・カウンセラーと連携を取り、情報提供がこまめに行われているため、迅速な対応ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・面談が増えたことで公的な情報交換は増えたが、日常での生徒との対話の中で、生徒の本音を聞きだす時間が取れていない教員が多い。 ・担任と学年主任、スーパーバイザーとの連携など、縦の情報交換システムが向上した。一方で、担任の指導は個別なもので、一貫性が必要とされる。 ・カウンセラーからの情報が、担当教諭や学年主任までに止まり、他の教員が十分に生徒状況を把握できていないケースが見られた。対応に留意すべき生徒の情報について、職員室で共有できる範囲でカウンセラーからの連絡を必要とする。

5-③	・生徒の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の特別指導等についての記録は、パソコンで一元的に管理する。 ・重大な問題行動が起こったとき、教職員間での速やかな情報共有を行う。 ・学年・生徒指導部・管理職での情報の伝達を円滑に行い、最善の対処を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の特別指導等についての記録をパソコンで一元管理することができた。 ・重大な問題行動が起きたときに臨時職員会議を開催し、教職員に速やかな情報の共有をすることができた。 ・その他の問題行動においても、学年又は生徒指導部として適切な対処ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は、事前の指導等で重篤化することを避けられる場合が多い。今後も小さなことから生徒指導を行うことによって、問題行動の芽を早期に摘み取っていきたい。 ・生徒の自主性の尊重を強調していく中で、「自主性」をはき違えた生徒が今後増えていくことも考えられる。その違いについては指導をしていくべきで、その適切な指導方法も検討する必要がある。

5-④	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)を身につけた生徒を育成するための指導を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自発的に考え、行動する機会を増やし、思考力や実践力を高める。 ・グループ活動等の体験的な学びと教員からの指導を交えて、奉仕の精神や公德心などを養い、互いを認め合い、高め合う雰囲気構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にアクティブラーニングを取り入れ、また、みどり祭や卒業生を送る会などの行事を生徒主体で行い、自発的に考えて行動する機会を確保した。その結果、積極的な思考・発言が多く見られるようになった。また、実行委員を中心に、自主的に必要な仕事を考えて計画して実行することで全体の運営を成功させた。 ・校外学習や宿泊体験において、グループでの共同作業を行った結果、級友たちと互いに認め合いながら協力しあって物事を成し遂げる力が育成された。 ・学級や委員会等の活動を通じて、個人が責務を果たすことの大切さを説き、一人ひとりが自身の役割を果たせるよう指導した。その結果、自分の分担箇所だけで終わらずに他の分担場所を手伝ったり、更に細かな部分まで丁寧に組み組んだりする自主的な姿勢や奉仕の精神が高まった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、体験的な活動に参加する生徒が限られてしまうことが課題であり、自主・自立、社会の一員としての意識を養うために、より多くの生徒が意欲的に関われる場を設定することが必要である。そこで、平成28年度からは企業活動を取り入れたプログラムを行い、総合的な学習の時間を活用して生徒が学年を越えて活躍できる取組の充実を図る。

6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・生徒の現状に合わせた、保健管理・保健指導・保健相談を実施する。 ・滞りなく健康診断を実施し、疾病予防、生徒の健康管理能力向上のための意識づけにつなげる。
取組内容 と成果	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を速やかに作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。 ・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。 ・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行い、年2回の体位測定を始め、年初の健康診断など、適切に実施した。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づき、生徒の現状に合わせて各月の保健目標を一部改め、保健指導や保健管理に取り組んだ。 ・新入生については保健記録票等の回収を入学前に行い、入学直後に実施の宿泊行事前に健康情報を把握し、職員間での情報共有ができた。 ・学校管理下での災害の手続きを通して、けがの状況を把握した。 ・感染症対策として、手指消毒及び嘔吐処理セットの点検と補充、全体に対しての情報発信、欠席状況調べ等を行った。予防に対する意識向上につながり、大きな感染拡大はみられなかった。 ・教室環境衛生の面では、換気に対する意識付けの方法として掲示物で取り上げ、徹底に努めた。
今後の課題 と改善策	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科による保健指導は、教科の単元に応じた保健指導が中心となるため、各教科の横のつながりが更に深まると良い。

	<ul style="list-style-type: none">・担任は日々の業務のなかで生徒とかかわることができる時間が十分に取れていない現状にある。放課後や休み時間をもっと生徒と過ごせるような、業務体系の抜本的な改革に向けて検討する機会が作れると良い。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の現状を踏まえて、保健目標の設定、保健管理、保健指導、保健相談の形を検討し、適切に実施する。・保健管理の面で、生徒の健康情報が、不十分な点がある。必要に応じて、学校側と家庭との情報交換を密に行う。・健康診断については、学校保健安全法改正に伴う項目の変更を踏まえて、実施に向けた事前準備、実施方法、事後措置の形を決める。・自己肯定感やストレスマネジメント等、心に焦点を当てた働きかけが必要である。全体に向けて発信する形を検討し、取り組む。

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、適切に実施する。 ・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、活用する。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組を定期的に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、それに則った教育活動を行い、大きな事故なく1年を過ごすことができた。 ・「防災・防犯マニュアル」を作成し、全校生徒に配付、防災教育及び防犯教育に活用した。 ・部活動ごとの活動特性に鑑み、「各部事故防止対策」を作成し、それに則った活動を行うことで、大きな事故なく1年を過ごすことができた。 ・校舎の安全点検については各場所の責任者を設定し、定期的に点検を行うとともに、週番の活動のなかでも毎日点検項目を設定し、実施している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全点検については、バス停周辺での安全指導等を行っているものの、徒歩で下校する生徒が少ないことからあまり想定していない。本郷台方面の通学路について調査・研究が必要である。

7-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、屋内消火栓取扱い訓練を1回行った。また、教職員対象の救命救急講座を1回行った。 ・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する心構えや基本行動の周知を行うことができた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、有事に対応できるような訓練を今後も継続したい。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていきたい。

8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員との意思疎通を心がけ、学校運営の共通理解を図る。 ・従来を踏襲した業務体制を見直し、より良い学校運営を目指す。 ・学校運営の方向性を示し、策定した教育ビジョンの実施に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との面談や、学年、分掌など、必要に応じて管理職との話し合いを持ち、職員との意思疎通を図ることで、管理職との信頼が構築された。 ・長年の仕事をそのまま踏襲する傾向に対して、管理職からの指示により改善を促し、その成果があらわれてきた。 ・学校運営の方針については、全職員への指示を徹底し、共通理解が得られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生徒、保護者の動向や、学級、学年運営上の情報等の報告が遅れることがあったため、問題が生じた場合はいち早く管理職へ連絡するよう注意喚起を促す。 ・部長、次長への相談は非常に多く、学校運営の方向性は一致していると考えられるが、さらに個々の教員の資質向上を図り、学校の運営を確固たるものとする。 ・部長、次長のリーダーシップのもと、教職員一人ひとりが学校経営に携わっていることを自覚するよう、意識改革を進める。

8-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が各校務分掌のいずれかに所属し、組織的な学校運営を行う。 ・各主任は、校務が確実に遂行されているかを適宜チェックする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が校務を担うことで、学校運営への参画意識が強化された。 ・各分掌主任は、分掌担当者への調整や助言を行った。その結果、ほぼすべての校務内容を着実に遂行することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から継続されている校務の内容や方法が踏襲されていることが散見される。再度点検し、現状に即したより良い内容への見直しを図る。 ・組織としての機能は果たしている一方、教職員の意識には軽重がうかがえた。分掌主任による指揮を高め、仕事内容の質的向上に努める。

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、運営会議のほか、分掌会議、学年会議を定例化する。 ・運営会議での合意を踏まえ、職員会議での指示、伝達を確実に実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等を行事予定に位置づけたため、会議の定例化が図れた。 ・必要に応じて臨時の運営会議や職員会議を開き、教職員への意思疎通を図ることができた。 ・事前の資料配付等により会議の内容を周知することで、円滑かつ有意義な会議への転換が図れた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・会議による組織の活性化が図られているため、定例の会議以外にも、必要に応じて随時開催する。 ・会議の内容を事前に周知することが有効であったため、次年度も同様に進める。 ・職員会議等において、生徒に関する情報を報告し、教職員全体で情報を共有するとともに、報告された情報については、教員一人ひとりが学校全体の情報であることを認識することが必要である。

8-④	<ul style="list-style-type: none">・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none">・職員の守秘義務の徹底を図る。・個人情報に関するすべての事柄の取り扱いは、慎重かつ適正に扱う。
今後の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none">・個人所有の情報機器の使用及び、デジタルデータの持ち出しを禁止することで、情報の漏洩を防いでいる。・生徒の氏名や住所、成績など一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。・成績処理を持ち帰らずに行うことを励行している。
今後の課題と改善策	<ul style="list-style-type: none">・教職員への周知は徹底されている。今後も引き続き、個人情報管理の徹底に努める。

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究については年に2回、6月と11月の学習月間に授業公開週間を設け、中・高等部の教員同士だけでなく、初等部の教員も授業を参観し、授業改善につなげる。 ・授業形態は従来の講義形式の「教わる学習」から「自ら主体的に学ぶ学習」に転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間が1週間あり、この期間を使い他教科の授業を参観することになっているが、実際には空き時間を利用するため、十分な授業参観ができていない現状がある。また、初等部の教員にも公開しているが、初等部の授業も並行して行われている中での授業公開であるため、同様な状況である。 ・授業改善についてはどの教員もグループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で全員が研究授業を実施した年度と担当者を決めて実施する年度があったが、平成27年度は全員の授業を公開するという形態であった。結果として初等部の教員も参観できたが、ディスカッションの時間が取れずに、参観後のアンケート記入にとどまってしまったことは、改善する必要がある。 ・今までも教科会等を利用してそれぞれの授業方法については意見交換や討論を行ってきたが、今後は初等部の教員とも教科ごとにディスカッションをする機会を設ける等して連携を図りながら授業改善、授業研究につなげていきたい。 ・どの教員も講義形式の一斉授業から脱するために、試行錯誤しながらアクティブな活動を取り入れる等して、生徒が自ら学ぶ姿勢を育む授業を行っているが、中等部生の場合授業内でのめりはりを明確につけないとグループワーク等の時間がかかりとられてしまう場合があるため、留意する必要がある。 ・生徒の学力向上のために、授業研究、教材研究、専門分野の研究、入試問題研究を通して、教員自身の授業力の向上を図っていく。

9-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と募集力の向上をキーワードに校内研修・校外研修ともアクティブラーニングを紹介した講座から、進学実績向上を目指した教科や分掌ごとの研修など、幅広く研修に参加することを促していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教員も教科や所属している分掌の研修には積極的に参加しており、教科においては一方的な講義型の授業形態を全面的に見直し、能動的な授業への転換が図られている。 ・各分掌の研修では入試広報部が募集力を高める成功事例としてある学校の方策を学ぶことができた他、進路指導部でも合格実績を伸ばしている学校の事例を参考に生かすことができている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修に参加する際、午後の空き時間を利用して出張することが多いため、午後を選択教科の授業が入っている場合は時間割変更が難しく研修に参加できない。また、週休日との関連で担任の代わりに終礼に行く関係で、出張に出られない状況もある。学年や分掌で交代するなど、多くの教員が研修に参加できる環境を整えることが必要である。

9-③	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日や授業公開週間に加えて、普段の授業においても部長、次長、スーパーバイザー、教科主任が授業観察を行い適切な指導にあたる。 ・授業観察で把握できた教員の不適切な指導においては、スーパーバイザー、教科主任が担当教員に助言する他、改善がなされるまで次長、部長が指導にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察は授業参観や授業公開週間を通じてなされ、その結果スーパーバイザーや教科主任から担当教員に対し、指導上の留意点・改善点が詳細に伝えられた。その後改善されているか否かの確認を部長、次長が行った。しかし普段の授業における授業観察は時間的に他の業務や授業との兼ね合いもあり難しい面があった。 ・指導が不適切な教員に対して、授業内容や方法が全面的に改善されたとはいえない面も見受けられるが、生徒の授業アンケートが実施されたことと合わせて、スーパーバイザー、次長、部長からの指摘は授業改善に効果的に働いている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日や授業公開週間だけでなく、普段の授業観察が定期的になされると良いと思われるが、そのためにはスーパーバイザーの持ち時間数がある程度調整する必要がある。 ・指導に問題が見受けられた教員に対しては、改善された内容を随時確認するとともに、教科内での研修や外部研修も活用して質の高い授業が生徒に提供できるようにする。 ・教員に対する適切な指導・助言の体制については、部長、次長、教科主任を中心とした指導及び教科内の教員同士の助言へと移行できるようにしていく。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・教育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。 ・必要に応じて外部の教育ボランティアの協力を得られる体制作りを検討し、その基礎を構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度初めて行われた、みどり祭の保護者企画は、保護者の自主的な活動が見られ、大変有意義なものとなった。 ・総合的な学習の時間において、外部の教育ボランティアを集める体制作りの検討や事前準備に入った。 ・国語科の授業で外部ボランティアを導入するなど進展が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭の保護者企画は、今後も継続的に行うことで、保護者との連携を密にし、学校と保護者の協力体制を作る場として今後も有効である。 ・実際に外部の教育ボランティアの活用をするためには、今後更なる検討や準備が必要である。

10-②	・学校公開を定期的実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や運動会等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。 ・保護者講座や保護者対象の立居振舞等を通して学校と保護者との関連を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観については、多くの保護者に幅広く学校を公開するために、曜日の設定や、授業を自由に参観できるようにするなどの工夫をした。 ・運動会では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。 ・保護者講座も、保護者と教員が楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観は学年が上がると、参加人数は減少傾向になっている。実際の生徒の学習の様子を見てもらう機会を増やすためにも、今後も継続した体制作りを行っていく。 ・保護者講座においては、よりニーズの高いものに特化し活性化していく。 ・次年度は学校開放デーを設けるなど広く公開する体制を整えたい。

10-③	・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者のニーズを聞き取り、現状把握を行い、内容を精査し反映させる。 ・保護者懇談会を開き、意見の共有や聞き取りをしやすい環境を提供する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートを実施した。アンケート結果を踏まえ、各教員の授業見直しやスーパーバイザーと協力した授業改善に取り組むことができた。 ・学校生活に関するアンケートの実施をしたことで、表面化されていないクラス内の傾向を知ることができ、学級担任のクラス運営に役立てることができた。 ・保護者懇談会を実施したことで、管理職が直接保護者と意見交換をすることができ、風通しが良くなるような土台作りができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートの内容を精査し、より学力向上やアクティブラーニングにつながる生徒の意見を聞き取り、これまで以上に生徒が主役となり、双方向性があり、活気のある授業展開の構築が求められている。 ・学校生活に関するアンケートを実施したことで、いじめの原因となり得る事象の発見や学級の生徒の思いにより気づきやすくなった。しかし、アンケート項目が多いことや生徒のアンケートに対する慣れによって、回答方法が雑になり、正しい実態評価につながるのかといった不安要素もある。そのため、アンケートの質問内容を精査し、効果的な質問へ絞る必要がある。 ・保護者懇談会のなかで、多くの意見が出ることでやや風通しがよくなっているが、参加者が固定化される傾向もあり、情報共有の難しさが課題である。

10-④	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における生徒の様子や現状を、教員と保護者が共有できる場としての保護者会や保護者懇談会を実施する。 ・三者面談を通じて、直接担任と生徒、保護者が話し合うことで、生徒の抱える問題や保護者の不安に迅速に対応する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に学校に来校してもらうことで、直接話をすることができ、情報の共有がよりスムーズにできている。必要に応じて、クラス単位や学年単位で保護者会を実施することで効果をあげている。 ・三者面談は、直接担任と生徒、保護者が話し合える場として、重要である。しかし、限られた時間内であるため、すべての相談ができるわけではない。必要に応じ、別の日に担任以外にも学年主任やスーパーバイザー、カウンセラーを交えて実施するケースもある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談においては、生徒、保護者と面談できる時間が限られている。また、教員間での情報を共有するための時間も不足している。学年会議を行い、情報共有に努めているが、更なる取組が必要と思われる。 ・保護者懇談会は学年を超えて行われ、保護者にとっては、広く情報を得る機会であり、発言の場にもなっている。今後も保護者との意見交換の場として活用していく。

10-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達や公開を行う。 ・情報提供により、保護者が学校に関心を持ち、学校理解の一つになるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体の広報誌「学園だより」や、機関誌「緑苑」、進路指導部からの「キャリア・進学だより」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」等を通じて行事予定や生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等を様々な形で提供した。 ・平成27年度は「学年だより」を各学年が毎月定期的に発行し、生徒の日常の生活の様子や学年の担任からのメッセージ等を掲載した。情報共有の場として活用し、大変有意義なものとなった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の良い関係作りには、こうした細やかな情報提供が今後も大切となる。 ・「学年だより」は、各学年がその時々伝えたい情報を提供し、その特徴がよく出されていた。今後も継続していくことが保護者との良い信頼関係を築く基礎となる。掲載される内容は、保護者が知りたいと考えている情報を選び、タイミング良く行わなければいけない。

10-⑥	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。 ・「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部生は二階堂学舎を活用し、校外学習で鎌倉の神社、仏閣、産業等について事前学習をしたうえで、グループ活動を実施した。特に中等部3年生は修学旅行の事前活動として鎌倉の散策を行い、その経験を修学旅行に生かすことができた。 ・赤い羽根募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。また、地域社会との連携の一つとして、児童文化部による「子どもフェスティバル」等の活動も意欲的に実施された。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・よりいっそうの地域社会との連携を強めるためには、企業や外部の専門家の導入が不可欠になると考えられる。また、生徒の自主的な活動を引き出すための、時間確保された実施計画が必要である。 ・募金の意義や必要性を丁寧に説明し、より自主的な活動につなげていく必要がある。

10-⑦	・教育実習生の受け入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間や取組内容を確立させたいうえで、事前に十分に学校として指導を行い、自覚をもたせる。 ・生徒の前では、教員としての自覚をもち、自発的に行動できるよう担当教諭を中心に指導する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に、事前の面談を複数回行い、学生の意思確認をしている。特に受け入れ前には、次長から実習に向かう心構えを説明し、実習に臨ませている。 ・教科指導と学級指導だけでなく、生徒への接し方や実習日誌の記入についても、それぞれの担当教員が、適切に指導しているため、3～4週間で学生に大きな変化が見られる。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の説明で、実習の重要さと、それを乗り越えるだけの努力が必要であることを、十分に学生に説明する必要がある。時には、実習の受け入れについて慎重に検討することも必要であろう。 ・実習生を受け入れる人数については、担当教員1名につき実習生1名がきめ細かい指導をするための理想である。実習生の指導可能教員数を超える人数を受け入れることに対する対応については、今後の課題になる。

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、生徒数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期に学校説明会を実施し、校外説明会に参加することで、受験生と保護者が必要とする情報を伝える。 ・説明会等で配付する資料の内容は適切で十分であるか配慮する。 ・ホームページへの基本的な情報の提供と更新を適切に行う。 ・生徒等の個人情報の保護に十分配慮する。 ・学習塾に対し、本校の教育活動について適切に情報提供を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、学校で行う入試イベントの時期、テーマ、内容を決めて実施した。その際、校外説明会を活用してイベントの告知を行い、受験生・保護者の誘導につなげることができた。 ・各回で配付する資料については、事前に検討を重ね作成した。受験生・保護者にとって必要な情報（本校の教育活動の内容、入試関連データ等）を掲載し、理解を得られた。 ・ホームページについては、年度初めに基本的な情報を掲載し、以後は学校行事や日々の教育活動の様子を「ニュース&トピックス」という形で随時、発信した。 ・生徒の個人情報保護を念頭に、ホームページへの掲載や印刷物発行には、事前に生徒保護者に「承諾書」を配付し、理解・承認を得られ、円滑に進められた。 ・入試広報部の担当教員だけでなく、計画的に（年2回）、中・高等部の全教員による塾訪問を実施し、塾の先生方に本校の教育活動について情報発信ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・受験生と保護者、塾の進路指導担当者が、本校の教育活動に対しての理解を深め、出願・受験・入学へとつなげていくためには、継続して、ダイレクトメール送付や塾訪問による告知・案内を行い、校外説明や学校説明会に誘導していくという流れを作る必要がある。この点については、平成27年度は徐々に告知から説明会への参加につながるようになってきた。今後は、受験から入学につながるよう、説明会自体のあり方についてもふり返り、内容を十分に検討し実施していく。 ・ホームページへの掲載内容について、教科・学年・部活動と分け、定期的に発信していけるよう、ニュース更新の担当者を明確にして対応していく。 ・塾訪問についての計画（時期・発信内容等）を立て、継続して実施していく必要がある。

12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室、美術・工芸室、調理室、被服室、第1・第2理科室などの各施設を有効に活用する。 ・中等部各教室に設置された電子黒板を有効に活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室、美術・工芸室は音楽や美術の授業で必ず使用され、活用されていた。また、2つある音楽室も合唱の練習などの際に、パート別に分かれて2カ所とも活用された。 ・技術家庭科では、実習を多く行っているために、調理室や被服室も頻繁に活用された。 ・理科室も環境整備が整ったことにより、使いやすくなり、実験などに多用された。 ・平成27年度より設置された教室の電子黒板は、動画や画像やホームページなどの視聴覚教材を使用する際に活用された。また、パワーポイントを用いた授業や生徒の発表の際にも有効であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・設置した電子黒板で使用したコンテンツを、教科内だけでなく、学校全体で共有し、より充実していくことが重要である。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・建物簡易診断を受診した。 ・平成27年度から北館1階に3年生の教室が移動となったため床の補修工事を行ったほか、空調機について年次計画を変更し、北館普通教室の台数を増加した。 ・本館の一部において、バリアフリー対応の工事を行った。 ・南グラウンドテニスコート脇のトイレについて、便器の洋式化等改修工事を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。 ・空調機の交換を計画どおり進める。 ・南グラウンドの老朽化が進んでいる建物について、改修等の計画を立案する。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の目的に合う場所や教材・教具・図書などの教育環境を整備する。 ・パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室やマルチメディアラウンジの電子黒板や、情報処理室、マルチメディアラウンジのパソコンも有効に活用されており、図書館では蔵書数や映像教材の更なる充実を図っている。 ・本館に設置された電子黒板は、英語会話の授業や理科の授業で活用されており、自習室については、進路指導部が担当し活用している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや電子黒板については、次年度、設置台数が増える見込みである。 ・教育活動でのパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法は更なる工夫や開発が可能である。また、それらを共有するためのシステムづくりを進めていく必要がある。

13. 事務支援体制

13-①	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部の教育活動における支援が適切に行われているか。 ・中等部の募集力向上に向けた改革における支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。 ・中等部 入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。特に募集人員充足に向けた以下の活動を目標とした。 <p>①学校案内制作 ②ホームページ制作 ③学校説明会運営 ④広報媒体等への交渉 ⑤他校入試・広報関連の情報収集 ⑥学習塾訪問頻度向上 ⑦校外進学フェア運営等の支援活動。</p>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・平成27年度より中・高等部カリキュラムが週5日制から週6日制に変更されたことに伴い、平成26年度まで休みであった土曜日の事務支援を新たに行った。 ・これまで経理部で作成していた業者支払いの勘定伝票や、扱いを厳格化するために預り金についての新たな帳票を支援室で作成するようになり、事務処理の合理化・厳格化に貢献している。 ・学校案内制作の支援を行った。コンサルティング会社のアドバイスと、中等部入試・広報担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。パンフレットとしての質の向上を図った。 ・ホームページ制作会社の移行支援を行った。運営コスト、コンテンツ更新速度等、あらゆる角度から研究し業者の選定を行った。結果、中等部の教育活動、生徒の学園生活等を閲覧者に対してタイムリーに、かつ分かりやすく提供することが可能となった。 ・広報ツールの制作支援を行った。チラシ・交通広告等の制作費、及び媒体使用料等の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られ、告知頻度の向上につながった。 ・塾訪問頻度の向上を図った。中等部長、並びに担当教員と連動した学習塾に対する訪問頻度を向上した。告知活動の充実を図り、今後の募集力増強に寄与した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛けたい。 ・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図りたい。 ・中等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。 ・学習塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ中等部の優位性を強く発信する。 ・初等部・中等部間の進学接続支援の増強を図る。

14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が年に1回以上定期的実施されているか。 ・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末にその年度に実施した教育内容について振り返り、次年度に生かせるように自己点検・評価を実施する。 ・自己点検・評価報告書の作成にあたっては、分掌主任を中心に中・高等部の全教職員で行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各点検項目にしたがって分掌を中心に、実施した教育内容について細部にわたり取組内容や成果、達成状況を点検することで、次年度の改善につなげることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者には年度末までに執筆を依頼しているが、成績処理と残務整理に加え、次年度への準備も入る時期であるため、点検項目などは年度の始めに決定していると、担当者が実施済のものから点検・執筆することができる。

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価の結果を受けて、改善すべき点は次年度に生かす。 ・取組内容に関して成果が表れているものについては、さらに工夫を凝らして次年度に実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・成果に結びついていない、又は目に見える結果が表れていない教育内容については十分な検討を重ねたうえで、代替策を講じることにつながっている。 ・教育内容について細部にわたりその内容の一つ一つを点検することで、明らかに次年度の教育活動に生かすことができている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の中にはすぐには結果には表れないものがあり、長い期間を経て成果に結びつくものもあるため、引き続き次年度も実施すべき教育内容か否かは十分吟味を重ねることが必要である。

第2章 高等部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を基盤として新たに策定した教育目標「自己の感性や価値を高め続け社会で活躍できる女性を育てる」を、各種教育活動全般に十分反映させ、さらなる浸透を図る。 ・教育目標実現のために身につけさせたい3つの力「実践力・思考力・共生力」を授業、学校行事等の中に明確に位置付け、教職員が日々行う教育活動において絶えず意識できるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、管理職、各分掌主任等で時間をかけて策定した目標であるため、一定の理解・浸透は進んでいたが、平成27年度はさらに、学校説明会や学校案内パンフレット等で建学の精神と併せて教育目標として明確に位置付けたために、教職員全体の意識化が推進された。 ・「実践力・思考力・共生力」については、職員室に掲示して可視化することから始め、さらに、学年の校外行事などで取組目標にするなど、生徒にも伝える形で明確にされてきている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神は、豊かな人間性の育成に欠かせないものであり、一方、教育目標は、今日的な課題に対応する各種スキル（ICT、英語、コミュニケーション等）の育成を内包しているものであり、この2つを車の両輪とした学校運営体制をより一層明確に示していく必要がある。

1-②	・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	・4月1日に部長から全職員に提示する「取組方針」の中に「計画的な塾訪問」「前例踏襲の徹底的な見直し」等の項目を示し、短期的に解決していく目標とした。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施した全教員による塾訪問は、学校全体で生徒募集に当たるという意識を持たせる意味で有効であった。 ・前例踏襲の徹底的な見直しに関しては、職員の受け止めにかかなりの温度差が見られ、十分な徹底には至らず、継続的な取組が必要である。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「取組方針」に短期的な目標を示すことは、職員の意識改革としては有効であるが、継続性という観点から見ると、やや単発的なものとなりやすい。したがって、今後、短期目標としての在り方については改善していく必要がある。 ・中期的な目標については、進路指導部など、分掌によっては、数値目標も含めて、定めている分掌もあるが、全体のものとしての共有化を図っていく必要がある。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の感性や価値を高めるため、建学の精神に基づいた学級運営、行事、授業を行う。 ・社会で活躍できる女性として必要な、「実践力」「思考力」「共生力」を高めていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会やみどり祭などにおいて、実行委員が主体的に行動する機会が増えてきて、行事が活性化してきた。特に委員長が生き活きと活躍していた。 ・行事や授業において各教員が「実践力」「思考力」「共生力」を高めるように意識するようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学級での指導を充実させるため、学級での朝礼のあり方を見直す必要がある。朝礼の時間に生徒の様子をよく観察し、コミュニケーションをとることが重要である。クラスの特性に合った取組を行うことも必要であろう。 ・学校行事では、生徒が主体的に動けるように計画し、教員がサポートにまわることが大切である。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の担当者は、4月の初めに年間学習指導計画書を作成して、スーパーバイザーや次長、部長に提出をする。 ・各学年団では、4月の初めに年間の道徳や総合的な学習の時間、ロングホームルームの計画を立てる。 ・年度初め前に、次長を中心にして校外活動の計画を立てる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画書は、4月の初め以外に、各学期の初めに「生徒に身につけさせた力」を記入し、学期の終わりに「自己評価」や「今後の課題と対策」を記入して提出することで授業改善に努めている。 ・各学年ごと、鎌倉や湘南などの地域、学問、上級学校、修学旅行先などを調べて、みどり祭などで発表している。また、学年で発表会を行い、表現力を高めたり、小論文に取り組む学年もある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者によって計画が変更することもあるが、今後は年間指導計画書とシラバスの関連を強化していく必要がある。 ・中高一貫教育の利点を生かし、生徒が主体的に活躍できるように、学年ごとの取組ではなく、組織的にかつ中高の一体感をもった取組を行う必要があるが、中等部から年次進行で考えなければならぬため、当面は、今までの取組を生かしていく。

2-③	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験に備えて、3年次の2学期には必要な内容を終わるとともに、問題演習の時間も確保する。 ・主に私立大学受験を目標とし、受験科目を重点的に学べるようにカリキュラムを定める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次より、文系、理系のコース選択を行うことで、歴史や理科において、自分の選択した科目を2年間継続して学ぶことができている。 ・2年次以降、文系の数学、理科、理系の歴史については必修を置かない。 ・各科目において、単位数を増加して丁寧な説明を行う時間及び、問題演習の時間も十分取れるようにしている。 ・学校設置科目の特講授業を設置して、必要に応じて選択することで、内容の理解を深めている。 ・鎌倉女子大学進学希望者には、高大連携講座や教養講座を設けている。教養講座については、進路変更に対応するためカリキュラム上には置かないが、時間割に組み込んだ講座にしている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉女子大学への内部進学者の実力を上げるため、2年次から進学希望者に対する取組を行う必要がある。そのためには鎌倉女子大学進学希望者のクラスを設けることも必要である。 ・3年次進級時に文理選択の変更は事実上不可能なため、1年次の進路指導が重要である。

2-④	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 高等部では観点別評価は行っていないが、実技科目はもちろんのこと主要科目でも、定期試験の点数以外にも多面的に評価するために、日頃の学習の取組などを評価に加える。 100点法の平均点を60 ± 5点になることを目標とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験以外に、グループワークや実験や実習、実技試験及び、小テストやレポート等の提出物も評価に加えている。 国語、地歴、公民、数学、理科、外国語においては、おおむね20%の割合で、定期試験以外の成績を加えている。 各学期の10段階評定や学年の5段階評定の算出にあたっては、教務部で定めた点数の区分表に当てはめて行うため、どの科目においても、同じ100点法の点数であれば、同じ評定が付く。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験のみの点数をみると、科目による平均点のばらつきがみられるため、平均点を60 ± 5点に近づけたい。そのためには、日頃から生徒の理解度をよく観察し、出題に生かさなければならない。 大学受験に備えて、難易度の高い問題も出題しなければならないが、生徒の学力測定に有意な出題になるよう、難易度のバランスに気を付ける必要がある。

3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週6日制の実施による授業日数の増加を有効に活用する。 ・従来型の授業スタイルに固執することなく、生徒主体型授業を導入するなど、より学習内容が身に付くよう生徒の指導にあたる。 ・高等部3年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて過年度の学習内容を含めたり、学習内容をより充実する観点から教科書外の内容に言及したりし、基礎学力の定着と学力向上を図った。 ・進学意欲の向上を目指し、特に成績上位者に対する学習指導を強化した。 ・従来の板書による授業やプリント学習に加え、電子黒板の活用など、わかりやすい授業を目指した。 ・アクティブラーニングの手法を導入するなど、教科の特性に応じた学習指導方法を行い、生徒の活発な発言など授業の活性化が認められた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校時代の学習内容が十分身につけていない生徒が少なからず在籍している現状が明らかになった。そのため学習支援センターの活用以外にも、過去の復習を取り入れた授業や補習など、基礎基本を身に付ける機会を設けることを検討する。 ・大学受験に必要な学力を修得させる指導を行う。 ・従来型の講義形式に比べて、生徒主体型による授業は生徒の授業への参加意識が高く、学んだ内容の認識度が良いため、より多くの授業で取り入れるよう努める。 ・これまでも生徒の興味関心をかきたてる授業を目指してきたが、3年後を見据えて幅広い知識が修得できる授業に努める。

3-②	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立を図る。 生徒の現在の学力の把握に努め、生徒が学習内容をしっかりと理解できるよう授業方法の工夫を図る。 各種検定試験の目標級の取得を目指す。 大学受験に備えて、学力・体力の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を確立させるため、宿題などにより家庭学習を促した。 基礎力テストによる診断のほか、日々の小テストにより基礎力を測った。英単語などは繰り返し行うことで、徐々にではあるが成果のでてきた生徒も見られた。 検定試験の受検を奨励した。その結果、平成26年度に比べ多くの生徒が受検した。 模試や過去問の活用により、学力の強化を図った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 大学受験の意識の違いにより、家庭での学習習慣は異なっている。宿題の未提出者への対策を含め、家庭学習の取組をいっそう充実させる。 学習習慣の確立には家庭学習の励行が欠かせない。生活習慣の確立とも密接にかかわるため、保護者に対し家庭での学習の取組にいっそうの協力を求める。 各種検定試験などの目標級の取得のために、これまで以上にPDCAサイクルを意識した取組を行う。 大学受験に向けた学習内容や方法を生徒や保護者が理解し、また、生徒が自ら学力向上に向けた取組ができるように助言指導する。

3-③	<ul style="list-style-type: none"> ・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心の授業から、生徒主体の授業への転換を図る。 ・知識中心の授業から、考える授業への転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の活用をはじめ、従来型の授業からの工夫をはかり、生徒への学習意欲の向上を図った。 ・机の配列や図書館の活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取組を行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業目標や進度を踏まえ、限られた時間のなかでの生徒主体型授業の工夫を継続して行っていく。 ・生徒の学習意欲向上のため、常に学習教材の精選と活用に心がけ、授業の組み立てについて研究を続ける。

3-④	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板やタブレット等の新しい機材を、各教員が使いこなせるようになる。 ・活用事例や講習を参考に、授業に積極的に導入していく。 ・最終的に、活用事例とその結果を教科で共有し、本校において効果的な活用を蓄積していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板や情報処理室の講習会も行われ、多くの教員が積極的に参加した。また、アクティブラーニングを含め、ICT関連の講習会への関心も高まっている。 ・電子黒板の導入により、資料の提示・動画やインターネットの活用等を反映させた授業は平成26年度に比べ大幅に増加した。 ・タブレットに関しては、まだ使用頻度は少ないが、徐々に活用の方も増え、その有効性は確認されつつある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に、本校における効果的な活用事例を蓄積することは、一朝一夕にできるものではない。まずはICTを意識した授業を少しでも多く実行し、教科内で情報の共有を図ることが必要であると考えます。 ・タブレットに関しては、早急に使用マニュアルを作成し、積極的に使用していただける環境を整備したい。

3-⑤	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部からの入学生に図書室ガイダンスを行う。 ・鎌倉女子大学へ進学が決まった3年生に、図書室授業を行い、ガイダンスをする。 ・授業担当教諭が授業中に生徒に見せる資料を貸し出す。また、総合的な学習の時間に利用する資料をブックトラックで学年に貸し出す。 ・読書活動の推進としては、新着本案内の掲示をし、図書室利用を促す。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の1時間をもらい、高等部からの入学生に図書室ガイダンスを行った。 ・3年生の教養講座の国語授業の一部2時間をもらい、ガイダンスや大学図書館の使い方などのアドバイスができた。 ・家庭科、理科、美術、情報、総合的な学習の時間等の授業での利用に対応した。資料が足りない時は、大学図書館から資料を借りた。総合的な学習の時間においても、学年へブックトラックでの大量貸出をした。 ・新着本案内の掲示については、年3回本を購入するたびに、生徒の希望図書や話題本の表紙をコピーし、興味を引くようなものを作った。 ・みどり祭では、1年生の夏休みの宿題「芥川龍之介『羅生門』のブックカバーデザイン」の展示をした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の計画的利用は、学校全体としての取組に対応していく。各教科の要望についても今まで以上に連絡を密にしてサービスの質を上げるよう努力する。 ・次年度から「朝の読書」を始める学年に、おすすめ図書の掲示資料を提供していく。リスト作りにも協力する。 ・高等部は教室と図書室が遠く、なかなか利用機会がないため、新着本案内や朝の読書を利用して、図書室を広報する活動をすすめていく。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等部3年間の各教科の授業において、従来のような教員の一方的な講義形式の「教わる学習」から、「自ら学ぶ学習」への転換を図る。 ・ 各教科の授業ではグループごとに課題に取り組ませる他、討論の場を設け発表させる等して、生徒が抱いた興味・関心がその後の自主的な学習につながっていくようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科の授業において、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。 ・ グループ討議などは慣れない生徒もいるため配慮することも必要であったが、回数を重ねるにつれ、自ら考えたことを自分の言葉で述べることができるようになっていった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の学びの姿勢が能動的になったと見受けられる部分は確かにある反面、教科書の内容をこなさなければならないことを考えると、時間が足りない現状もある。 ・ 自らの気づきによる学びという基本的な考え方の下、1つの授業時間のなかで講義、質問、グループ討議など様々な授業形態を複合させるなどの工夫をしていきたい。

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身につけ、感動や達成感が味わえるようにする。 ・生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、対処できる準備を整理しておく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭や卒業生を送る会などの学内行事では、各実行委員が担当教員と連携を図り、リーダーシップをとることで、生徒主体の有志企画が年々充実してきている。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。 ・宿泊等の学外行事では、自然災害時の対応、最寄りの医療機関等を事前に保護者に示し、健康状態の調査を行うなどして安全を第一に実施することができた。また、行程は数か月前から業者と打ち合わせを重ね、時間的に余裕を持った見学や体験活動ができるよう計画している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤を重ねて内容を更に充実させていく。より多くの生徒が積極的に意見を出しあったり、自発的に参加したりできるよう改善を図る。 ・今後も更に生徒の安全には注意を払い、様々な側面から考え、細かく計画していく必要がある。 ・本校の良さを残しながらも、より生徒主体での行事運営ができるよう、新しいことにも積極的に挑戦する姿勢を持つ。

3-⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。 ・保健体育委員会では、保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。 ・文化委員会では、「学校新聞」の発行を行う。 ・美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。 ・ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。 ・運動会実行委員会では、運動会の企画・運営を行う。 ・みどり祭実行委員会では、みどり祭の企画・運営を行う。 ・合唱コンクール実行委員会では、合唱コンクールの企画・運営を行う。 ・卒業生を送る会実行委員会では、卒業生を送る会の企画・運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員会では、4月16日に新入生歓迎会を行った。 ・保健体育委員会では、9月1日に学級委員会と合同で「全校球技大会」を企画したが、雨天のため中止となった。 ・文化委員会では、1学期末及び3学期末に「学校新聞」を発行することができた。 ・美化委員会では、清掃点検を行って校内の美化を促進した。また、校内外の花壇の整備を行った。 ・ボランティア委員会では、あしなが学生募金活動への参加、ペットボトルキャップ回収、青少年健全育成推進街頭キャンペーンへの参加、赤い羽根共同募金運動への参加等、様々な活動に参加した。 ・各実行委員会では、5月16日運動会、9月12、13日みどり祭、1月26日合唱コンクール、2月18日卒業生を送る会を実施し、成功させた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動は学期に一度のペースでしか行われていないため、大きな活動を行う場合、どうしても教員主導になってしまう。改善策として委員に関しては、前後期制をとり、活動期間を長く設定し、生徒主体の活動に発展させていく。 ・各実行委員会については、大部分において教員主導から生徒主導へ移行できたと考える。今後も更に生徒が主体的に活動できる場を増やしていきたい。

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。 ・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前にまとめ、まずは事故が起きない工夫をし、万が一のときには速やかに安全対策や治療への対処ができる準備を整える。 ・安全に楽しく活動できるように、活動時間や活動場所、活動内容を定める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「校友会・事故防止のための安全対策」を校友会各部で作成し、安全や事故防止に配慮して活動できるようにしている。また、万が一事故などが起きた時には、速やかに対処できるような準備をしている。 ・校友会ごとに週休日を設け、体力面・学習面・安全面に留意して活動を行っているため、大きな事故を起こさずに活動することができている。 ・活動中は、できる限り顧問が監督し、安全に留意して活動できるような工夫をしている。職員会議時など、職員不在時は、活動内容を工夫し安全性の高いものを行うか、活動自体を自粛している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、事故を防止するために横のつながりや生徒の自発性を高めて、より安全に活動できるようにすべきである。そのなかで、備品が壊れた場合は、放置してあることで二次災害の危険性もあるため、修理若しくは廃棄を速やかに行う。 ・できるだけ活動中に顧問が監督できるようにしているが、公務の都合などにより顧問不在の場合もある。その際は、活動場所が同じ別の校友会顧問と協力をし、万が一の際などには速やかに対処・連絡が取れるように工夫しているが、できる限りイレギュラーのないようにする必要がある。 ・中・高等部の組織として、部活動を教育活動の一部という認識を教員が持ち、生徒の実践力・思考力・共生力を育むために、できるだけ協力する雰囲気を作る必要がある。

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々のわからない内容に対応する個別指導、授業フォローを学習支援センターにて実施し学力の底上げを図る。さらに高等部3年生においては個々の受験対策も支援センターで対応できるようにする。 ・定期試験前対策講座、英検対策講座、各教科で実施された小テストの再試などを学習支援センターで実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部3年生の受験対策においてはスーパー自習室を利用しながら、わからない部分を講師に質問する等して学習を進める生徒も見られた。 ・定期試験前対策講座、英検対策講座については概ね計画どおりに実施できた。 ・小テストや英単語テストの再試については人数が多すぎてしまうこともあったが、放課後の再試があることで、生徒が単語を暗記する努力をするようになったこと等、学習効果も表れている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターについては、平成27年度より運用開始した。今後、個別指導、授業フォローにおいては十分に機能できるよう検討していく。 ・生徒それぞれがつまづいている分野や単元に対応できる個別指導に加え、その都度授業時のフォローができるようになると良いと思われる。また、今後高等部3年生の受験対策や学習の進みが早い生徒を対象にしたステップアップ講座なども開講されると良い。 ・定期試験前対策講座等は教員が行っているものもあるため、学習支援センター主催の講座とすみ分ける必要がある。

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部各学年の理科における実験・観察においては安全を第一に、教科担当の他に実験助手が付きチームティーチングで実験・観察指導にあたる。 ・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に英語科担当が付き、授業の進度や生徒の理解度に合わせて英語科担当がフォローに入るようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察においては各班や個々の実験進度に応じて、授業担当者だけでは見きれない部分を実験助手がサポートに入ることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。 ・高等部2年の理科課題研究では農園を活用する授業で、鍬等の農機具も使用するため、チームティーチングで生徒の動きに目を配ることができた点は安全面において大変良かった。 ・高等部3年の理系生物では教員2名と実験助手の3名体制で解剖実験を行うことができ、各ペアーでの実験進度を把握できたことで効率良く進めることができた。 ・英会話ではチームティーチングの形態での授業を以前から行っており、授業の進め方などは英語科のなかで確立されつつあり、学習効果は上がっている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは概ね良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。 ・初等部との連携に関する取組がなされているか。 ・中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、初等部、中・高等部において行事や授業等の機会を通して可能な範囲で共に取り組む。 ・幼稚部と高等部では、みどり祭での補助をはじめ、高等部の生徒の職業体験、美術や家庭科の授業において連携を図る。 ・初等部と中・高等部では入試広報関係を強化し、初等部に中・高等部の取組をより詳しく知ってもらう企画を実施する他、各教科の授業においても連携を図る。 ・中等部、高等部においてはそれぞれの発達段階を踏まえ、教科では中等部での学びが高等部につながるように配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせたいうで上級学年につなげる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の協力を得て平成27年度も2回にわたり、将来幼稚園教諭や保育士を目指す生徒が3日間の職業体験を行った。自身の適性を知る意味で貴重な時間になった。 ・マーチングバンド部が幼稚部の運動会で演奏・演技を披露した。 ・高等部3年生が教養美術の授業で制作した自主教材を使って幼稚部の園児とふれあうお楽しみ企画を実施し、実践的な学びを得ることができた。 ・初等部とは入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した。 ・初等部6年生と高等部3年生生理系選択生物の授業において、「イカの解剖実験・観察」を連携して行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭が別日程になったこともあり、平成26年度まで行われていたバスケットボール部や児童文化部と初等部生との交流がなくなってしまったことが課題である。これまで実施されていたバスケットボール部の初・中・高の混合チームでのミニゲームは大変好評であった他、児童文化部では人形劇を観劇してくれた初等部2年生にクリスマスカードを届ける交流も図っていた。できればどのような時期に復活できるかを検討したい。

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> 大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいて大学と高等部が連携を図る。 鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座及び進学が決定した生徒のための入学前集中講座を通して、円滑な接続を図る。高等部から鎌倉女子大学への進学に関しては、併設校としてのメリットを生かすことができるようにする。 みどり祭において大学の学友会と高等部の校友会との連携を図る。 大学の教員が、高等部の生徒に専門的な学びの内容を話す機会を設ける。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては予定どおり連携することができた。 高等部3年生が通年で授業を聴講できる高大連携講座及び進路別に講義を受講できる入学前集中講座を実施した。 大学のみどり祭においてマーチングバンド部とフェアリーコンソート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭ではフラダンス等いくつかの学友会が演奏・演技を披露し、会場を盛り上げた。 二階堂学舎で行われる高等部3年生の卒業記念講演会では、大学の家政学部長による講演が行われた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習における学生の評価については、情報を共有し報告をする過程を通して、より連携を図る必要がある。 高大連携講座は通年で受講でき、単位を先取りできるという面で併設校のメリットとなっているが、単位認定されない評価を受ける生徒もいるため、高等部3年生には改めて目的意識を持ち、将来につなげられるように受講する旨を伝える必要がある。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みを意識しながら学校生活を送り、進路学習を進めることができるようにする。 ・生徒一人ひとりが、自らの強みや適性役割を意識した、進路選択やキャリアデザインができるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における役割ニーズや社会が要請する役割ニーズを、進路ガイダンス、進路通信、学年行事、学級活動を通じて提示し続けた。その結果、自らの強みを考慮した進路選択を考える傾向が強まった。 ・2年生や3年生では、具体的な学部・学科選択を行う際に、自らの強みや適性役割を考慮した選択を行うように促した。その結果、苦手回避の選択を行う生徒は減少してきた。 ・進路ガイダンスを通じて、キャリアデザインの考え方や進め方をレクチャーして、目的を持った進路選択を行うように促した。その結果、安易な進路選択をする生徒が減少した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの強みを考慮した進路選択までの過程を更に詳細に把握して、どの情報をいつどのように提示すれば良いか検討したい。 ・進路選択において明確な目的を意識するような、キャリアデザインの考え方や進め方のレクチャー内容を検討したい。

4-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに自らの強みと、その強みを生かした学びが、組織、地域、社会のニーズに対してどのような形で貢献できるか考えさせる。 ・社会で活用する知識やスキルと大学などにおける学びとの関係性や、その土台となる高等学校における学びとの関係性を理解させる。 ・看護体験や職場体験などに参加させ、職業との適性や必要とされる知識やスキルを理解させる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスなどを中心とした進路講演会を通じて、組織や地域、社会において必要とされる知識やスキル、人物像を繰り返し伝え、自らが組織、地域、社会に貢献するとはどのようなことか、どのように貢献できるかを考えさせた。その結果、進路選択の理由が曖昧な生徒が減少する傾向にある。 ・大学訪問などで、実際の大学の学びと社会で活用する知識やスキルの関係性や、高等学校の学びが大学の学びの土台になっていることを、実際の学生の事例などを通じて学ぶ機会を設けた。その結果、本校の卒業生と連絡をとったり、オープンキャンパスで学生に具体的な質問をする生徒が増えてきた。 ・将来資格職を目指す生徒には特に積極的に職場体験に参加させ、適性を判断したり、高等学校での学びをどのようにしていくべきか考えさせた。その結果、イメージだけで職業選択をしていく生徒が減少傾向にある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・組織や地域、社会において必要とされる知識やスキル、人物像を繰り返し伝える方法については、講演会などの座学だけでなく、体験的な取組も検討していく必要がある。また、効果的な振り返りの方法も検討していく必要がある。 ・実際の大学の学びと社会で活用する知識やスキルの関係性や、高等学校の学びが大学の学びの土台になっていることを知る機会を増やすとともに、生徒がどのように関係性を理解しているかを把握する機会も設ける必要がある。

4-③	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談、三者面談による情報収集と、生徒への助言・指導を行う。 ・進路希望調査を実施し、必要な大学の情報収集を行う。 ・職業体験やインターンシップへの参加による適性の把握を行う。 ・模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルに関するPDCAサイクル指導を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談や三者面談において、志望進路の方向性や志望理由を把握し、情報収集の方法の提示や、適性を考える機会の提示を行った。その結果、各自で情報収集を行い、次の面談がより意味のある面談となった。キャンパス訪問時に授業体験や活動体験をすることで、志望進路に対する適性を考え、生徒自身の学びを振り返る契機となった。 ・進路希望調査の記入に必要な大学の情報を収集することを通じて、情報収集力と情報活用力が向上した。また、担任や進路指導部が収集した情報の偏りを見ることで、進路学習方法の傾向を把握することができた。 ・職業体験やインターンシップに参加し、振り返りの実習ノートを記入させた。その結果、生徒自身が志望進路の適性や必要な学びを考える契機となった。また、教員が実習ノートを見ることで、生徒の適性や必要な学びを把握することができた。 ・模擬試験の帳票返却の際に学習に関するPDCAサイクルを考えさせることで、生徒も教員も学習方法の偏りや、不足している学習スキルを把握することができた。その結果、目標校に対する学習内容の偏りや学習方法の偏りを修正し、不足している学習スキルを指導することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・志望進路に対する適性を進路変更の材料にしてしまう傾向があるため、生徒の進路学習のきっかけとし、志望進路に対する適性の強化を行う機会を設けたい。 ・職業体験やインターンシップ参加後の振り返りの内容を検討し、生徒自身が志望進路に向かう目的を考え、明確にする機会を設け、生徒自身が常に志望進路に対する目的を意識しながら進路学習を行っていけるような体制にしたい。 ・PDCAサイクルの見直し期間は生徒により様々であるため、模擬試験の帳票返却時以外の時期でも、必要に応じて見直しの機会を設けられる体制を作りたい。

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談などを利用して、進路学習意識の向上と文理選択や進路の方向性の検討への助言を行い、本人の決定を促す。 ・二者面談や三者面談などを通し、模擬試験の帳票などの学習情報を利用して学部・学科選択や志望校選択に関する助言を行い、本人と家族での決定を促す。 ・放課後に進路指導部の担当者による、キャリア・カウンセリングを実施する。 ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルについては、進路指導主任がキャリア教育学会認定のキャリア・カウンセラー資格を取得し、研修会等に参加して情報収集して、必要に応じて教員に情報伝達する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスで伝えた、進路学習の必要性や具体的学習内容を踏まえ、二者面談では、個に応じた進路学習方法を提示し、生徒本人に文理選択や進路の方向性を考えさせた。その結果、大学訪問やオープンキャンパス訪問時に、進路学習の内容を踏まえた情報収集などができるようになってきた。 ・模擬試験の帳票を利用して、科目の適性などを考慮した学部・学科選択や、志望校選択に関する情報を提供し、保護者や生徒自身に学部・学科や志望校を決定させ、自己決定意識の高い進路選択を行うよう促した。 ・放課後の進路指導部の担当者によるキャリア・カウンセリングでは、入試状況を踏まえた入試相談や、生徒の適性を踏まえたキャリア構築の相談を受けた。その結果、学部・学科選択や大学選択に生徒の主体性が芽生え、収集した情報を元に自ら学部・学科や受験校選択を行う生徒が更に増えた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談において提示する進路学習の方法について、研究会等で得られた情報を定期的に学年団に提供していきたい。 ・生徒が進路の方向性、文理選択、学部・学科選択、大学選択などを自己決定できるための情報提供を更に充実させたい。 ・高等部の担任がキャリア・カウンセリングに関する研修会に参加できるように、研修情報を提供すると同時に、進路指導部の副主任格の教員には、キャリア・カウンセラーの資格取得に向けて研修を受けるように促したい。

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習に関する相談について進路相談室を利用して行う。 ・高等部校舎の1年生から3生までのフロアーに掲示板を設置し、大学の公開講座や入試情報分析会のお知らせなどを掲示する。 ・自習室に入試に関する問題集や各大学の赤本などを配架し、受験準備のサポートを行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進学先に関する相談など、模擬試験の結果や大学に関する各種情報が必要な相談を行う際には、プライバシーに配慮して進路相談室を利用し、充実した情報提供を行った。また、受験期の心理的不安を解消するために、キャリア・カウンセリングなども行った。その結果、具体的な情報を提供し、不安を吐露する機会を得ることができたため、心理的に安定して受験準備に取り組むことができた。 ・掲示板上の講座情報や入試情報を提供することで、大学に関する情報収集の機会を増やすことができた。また、低学年であっても、早い段階から個別に大学訪問を行ったり、入試情報に触れることで、進学に関する意識を高めることができた。その結果、1年生の段階からオープンキャンパスに積極的に参加する生徒が増えた。 ・自習室で利用する参考書や問題集、赤本については、生徒の要望を聞きながらそろえている。また、過年度の赤本も配架しておき、卒業生が目指していた大学などを意識して受験準備をするようにした。その結果、自習室を利用した生徒の学習意欲は高まり、より高い大学群を目指す傾向になった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談室を恒常的に開放することができていないため、定期的な開放を行えるようにしたい。 ・掲示板上やクラスの掲示板上に掲示する内容を更に厳選し、大学に対する興味を持って進路学習ができるようにしたい。 ・自習室の配架本を更に充実させたい。また、受験準備に対してより意識が高まるような仕掛けを考えていきたい。

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議において、各学年の生徒状況を報告する機会を設け、理解し、対応できるようにする。 生徒指導部からの細かい生徒指導に関する事案をリアルタイムに連絡し、各学年で対応が取れるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議において、各学年から生徒状況の報告が実施されるようになり、指導が必要な生徒に対して、教職員全体で理解し、対応できるようになった。 学校グループウェアの導入によって、生徒指導部からの生徒に対する注意事項等の連絡がスムーズになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 指導が必要な生徒の状況についての理解を共有することはできているが、細かい事象の記録と共有が各担任・各学年任せになっている。すべてのことを共有する必要はないかもしれないが、その線引きについて検討が必要である。 原則として、生徒指導事案は各担任等から学年主任、そこから生徒指導部へという手順をイメージしているが、時折、学年主任を飛び越えての報告・連絡があり、場合によっては学年主任が知らないというケースもある。約束事としては周知のことであるため、学年主任への報告・連絡の徹底を進めたい。

5-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。 ・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの生活状況の共有を行い、生徒の心理的な変化に迅速に対応する。 ・学年単位、学校単位で生徒の心のケアを行う体制を整える。 ・報告、連絡、相談の徹底で、学校全体で、欠席が増えた生徒を学校に迎えやすい環境を整える。 ・生徒が教育相談室を利用しやすくなる雰囲気を作るため、職員室との連絡体制をより緊密なものとし、教員が積極的に相談するようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼で生徒一人ひとりの様子を見る時間が増え、声かけも多くできるようになった。 ・学年単位で情報の共有がされ、スーパーバイザーの協力も大きかった。 ・学級状況の報告が簡略化・合理化されたことで、生徒に目を配る時間や余裕が増えた。その分、担任一人ひとりがクラス運営・管理の記録を各自行うことが重要である。 ・カウンセラーまで事案を進めることなく、学年や保健室の協力で生徒への対応ができた。 ・学年主任が担任を持たないことで全体を見渡し、情報の集約ができた。 ・カウンセラーと連携を取り、情報提供がこまめに行われているため、迅速な対応ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・面談が増えたことで公的な情報交換は増えたが、日常での生徒との対話の中で、生徒の本音を聞きだす時間を取れていない教員が多い。 ・担任と学年主任、スーパーバイザーとの連携など、縦の情報交換システムが向上した。一方で、担任の指導は個別なもので、一貫性が必要とされる。 ・カウンセラーからの情報が、担当教諭や学年主任までに止まり、他の教員が十分に生徒状況を把握できていないケースが見られた。対応に留意すべき生徒の情報について、職員室で共有できる範囲でカウンセラーからの連絡を必要とする。

5-③	・生徒の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の特別指導等についての記録は、パソコンで一元的に管理する。 ・重大な問題行動が起こったとき、教職員間での速やかな情報共有を行う。 ・学年・生徒指導部・管理職での情報の伝達を円滑に行い、最善の対処を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の特別指導等についての記録をパソコンで一元管理することができた。 ・重大な問題行動が起きたときに臨時職員会議を開催し、教職員に速やかな情報の共有をすることができた。 ・その他の問題行動においても、学年又は生徒指導部として適切な対処ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動は、事前の指導等で重篤化することを避けられる場合が多い。今後も小さなことから指導を行うことによって、問題行動の芽を早期に摘み取っていきたい。 ・生徒の自主性の尊重を強調していく中で、「自主性」をはき違えた生徒が今後増えていくことも考えられる。その違いについては指導をしていくべきで、その適切な指導方法も検討する必要がある。

5-④	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)を身につけた生徒を育成するための指導を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自発的に考え、行動する機会を増やし、思考力や実践力を高める。 ・グループ活動等の体験的な学びと教員からの指導を交えて、奉仕の精神や公德心などを養い、互いを認め合い、高め合う雰囲気構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にアクティブラーニングを取り入れ、また、みどり祭や卒業生を送る会などの行事を生徒主体で行い、自発的に考えて行動する機会を確保した。その結果、積極的な思考・発言が多く見られるようになった。また、実行委員を中心に、自主的に必要な仕事を考えて計画して実行することで全体の運営を成功させた。 ・校外学習や宿泊体験において、グループでの共同作業を行った結果、級友たちと互いに認め合いながら協力しあって物事を成し遂げる力が育成された。 ・学級や委員会等の活動を通じて、個人が責務を果たすことの大切さを説き、一人ひとりが自身の役割を果たせるよう指導した。その結果、自分の分担箇所だけで終わらずに他の分担場所を手伝ったり、更に細かな部分まで丁寧に取り組んだりする自主的な姿勢や奉仕の精神が高まった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭や卒業生を送る会などを通じて生徒の自主・自立、行動力が高まっているが、一方でこういった主体的、体験的な取組に参加する生徒に限られていることが課題であるため、生徒主体で行う行事の充実、活性化を図りたい。 ・今後は生徒自身による広報活動にも力を注ぎ、外部への広報力も磨けるように提案し活動を広げていく。

6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・学校行事を見据え、生徒の健康情報を早期に集約し、保健管理・保健指導・保健相談を適切に実施する。 ・健康診断の運営方法変更に伴い、実施方法の詳細について、検討する。
取組内容 と成果	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を速やかに作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。 ・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。 ・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行っている。年2回の体位測定を始め、年初の健康診断など、適切に実施することができた。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を策定し適切に実施した。 ・入学式翌日に行われる宿泊オリエンテーションに安全に参加できるよう、新入生の健康情報集約日を、4月の入学式から3月の新入生登校日に変更した。 ・鎌倉保健福祉事務所の保健師の協力を得て、3年生を対象に「女性のからだとライフサイクル」について保健講話を実施し、全体への指導を行った。 ・学校管理下での災害に対して、手続きを通してけがの状況を把握した。 ・環境衛生の面は、二酸化炭素の基準値を超える教室がある。保健日より、掲示物等により、生徒への積極的な呼びかけを行うとともに、教員に対しても換気の徹底をお願いした。
今後の課題 と改善策	<p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科による保健指導は、教科の単元に応じた保健指導が中心となるため、各教科の横のつながりが更に深まると良い。 ・担任は日々の業務のなかで生徒とかかわることができる時間が十分に取れていない現状にある。放課後や休み時間をもっと生徒と過ごせるような、業務体系の抜本的な改革に向けて検討する機会が作れると良い。

	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒の現状を踏まえて、保健目標の設定、保健管理、保健指導、保健相談の形を検討し、適切に実施する。・生徒の健康情報については、必要に応じて家庭・本人への働きかけを行う。・健康診断については、学校保健安全法の改正に伴う項目の変更を踏まえ、実施に向けた事前準備、実施方法、事後措置の形を決める。・3年生だけでなく、他学年への保健講話実施に向け、3年間で系統立てた指導の形を検討する。・感染症の蔓延防止及び、学習環境の保持のため、今後も換気の徹底を周知させる。
--	--

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・ 学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・ 校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校安全計画を作成し、適切に実施する。 ・ 学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、活用する。 ・ 校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組を定期的に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校安全計画を作成し、それに則った教育活動を行い、大きな事故なく1年を過ごすことができた。 ・ 「防災・防犯マニュアル」を作成し、全校生徒に配付、防災教育及び防犯教育に活用した。 ・ 部活動ごとの活動特性に鑑み、「各部事故防止対策」を作成し、それに則った活動を行うことで、大きな事故なく1年を過ごすことができた。 ・ 校舎の安全点検については各場所の責任者を設定し、定期的に点検を行うとともに、週番の活動のなかでも毎日点検項目を設定し、実施している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路の安全点検については、バス停周辺での安全指導等を行っているものの、徒歩で下校する生徒が少ないことからあまり想定していない。本郷台方面の通学路について調査・研究が必要である。
資料	【資料7-1】学校安全計画 【資料7-2】危機管理マニュアル

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、屋内消火栓取扱い訓練を1回行った。また、教職員対象の救命救急講座を1回行った。 ・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する心構えや基本行動の周知を行うことができた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、有事に対応できるような訓練を今後も継続したい。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていきたい。

8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員との意思疎通を心がけ、学校運営の共通理解を図る。 ・従来を踏襲した業務体制を見直し、より良い学校運営を目指す。 ・学校運営の方向性を示し、策定した教育ビジョンの実施に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との面談や、学年、分掌など、必要に応じて管理職との話し合いを持ち、職員との意思疎通を図ることで、管理職との信頼が構築された。 ・長年の仕事をそのまま踏襲する傾向に対して、管理職からの指示により改善を促し、その成果があらわれてきた。 ・学校運営の方針については、全職員への指示を徹底し、共通理解が得られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の生徒、保護者の動向や、学級、学年運営上の情報等の報告が遅れることがあったため、問題が生じた場合はいち早く管理職へ連絡するよう注意喚起を促す。 ・部長、次長への相談は非常に多く、学校運営の方向性は一致していると考えられるが、さらに個々の教員の資質向上を図り、学校の運営を確固たるものとする。 ・部長、次長のリーダーシップのもと、教職員一人ひとりが学校経営に携わっていることを自覚するよう、意識改革を進める。

8-②	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> すべての教員が各校務分掌のいずれかに所属し、組織的な学校運営を行う。 各主任は、校務が確実に遂行されているかを適宜チェックする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 教職員全員が校務を担うことで、学校運営への参画意識が強化された。 各分掌主任は、分掌担当者への調整や助言を行った。その結果、ほぼ全ての校務内容を着実に遂行することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 従来から継続されている校務の内容や方法が踏襲されていることが散見される。再度点検し、現状に即したよりよい内容への見直しを図る。 組織としての機能は果たしている一方、教職員の意識には軽重がうかがえた。分掌主任による指揮を高め、仕事内容の質的向上に努める。

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、運営会議のほか、分掌会議、学年会議を定例化する。 ・運営会議での合意を踏まえ、職員会議での指示、伝達を確実に実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等を行事予定に位置づけたため、会議の定例化が図れた。 ・必要に応じて臨時の運営会議や職員会議を開き、教職員への意思疎通を図ることができた。 ・事前の資料配付等により会議の内容を周知することで、円滑かつ有意義な会議への転換が図れた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・会議による組織の活性化が図られているため、定例の会議以外にも、必要に応じて随時開催する。 ・会議の内容を事前に周知することが有効であったため、次年度も同様に進める。 ・職員会議等において、生徒に関する情報を報告し、教職員全体で情報を共有するとともに、報告された情報については、教員一人ひとりが学校全体の情報であることを認識することが必要である。

8-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・職員の守秘義務の徹底を図る。 ・個人情報に関するすべての事柄の取り扱いは、慎重かつ適正に扱う。
取組内容 と成果	・個人所有の情報機器の使用及び、デジタルデータの持ち出しを禁止することで、情報の漏洩を防いでいる。 ・生徒の氏名や住所、成績など一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。 ・成績処理を持ち帰らずに行うことを励行している。
今後の課題 と改善策	・教職員への周知は徹底されている。今後も引き続き、個人情報管理の徹底に努める。

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究については年に2回、6月と11月の学習月間に授業公開週間を設け、中・高等部の教員同士だけでなく、初等部の教員も授業を参観し、授業改善につなげる。 ・授業形態は従来の講義形式の「教わる学習」から「自ら主体的に学ぶ学習」に転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間が1週間あり、この期間を使い他教科の授業を参観することになっているが、実際には空き時間を利用するため、十分な授業参観ができていない現状がある。また、初等部の教員にも公開しているが、初等部の授業も並行して行われている中で授業公開であるため、同様な状況である。 ・授業改善についてはどの教員も机上での一斉講義形式の授業から、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、各教科において生徒自らの気づきが積極的な学びにつながるような授業を工夫し実践した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で全員が研究授業を行った年度と担当者を決めて行う年度があったが、平成27年度は全員の授業を公開するという形態であった。結果として初等部の教員も参観できたが、ディスカッションの時間が取れずに、参観後のアンケート記入にとどまってしまったことは、改善する必要がある。 ・今までも教科会等を利用してそれぞれの授業方法については意見交換や討論を行ってきたが、今後は初等部の先生方教員とも教科ごとにディスカッションをする機会を設ける等して連携を図りながら授業改善、授業研究につなげていきたい。 ・各教科ともグループワークやペアワークを取り入れたり、討論・発表の場を設ける等して生徒の主体的な学びを促す授業を模索しながら実践しているが、特に高等部においては受験学力を付けることも意識し教科書の内容も早めに終える必要があるため、講義や演習とのバランスをとることが必要である。 ・生徒の学力向上のために、授業研究、教材研究、専門分野の研究、入試問題研究を通して、教員自身の授業力の向上を図っていく。

9-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善をキーワードに校内研修・校外研修ともアクティブラーニングを紹介した講座から、進学実績向上を目指した教科や分掌ごとの研修など、幅広く研修に参加することを促していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教員も教科や所属している分掌の研修には積極的に参加しており、教科においては授業形態を全面的に見直す中で能動的な授業への転換が図られている。 ・各分掌の研修では入試広報部が募集力を高める成功事例としてある学校の方策を学ぶことができた他、進路指導部では合格実績を伸ばしている学校の事例を参考にする等、研修内容は大変参考になっている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修に参加する際、午後の空き時間を利用して出張することが多いため、午後を選択教科の授業が入っている場合は時間割変更が難しく研修に参加できない。また、週休日との関連で担任の代わりに終礼に行く関係で、出張に出られない状況もある。学年や分掌で交代するなど、多くの教員が研修に参加できる環境を整えることが必要である。

9-③	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日や授業公開週間に加えて、普段の授業においても部長、次長、スーパーバイザー、教科主任が授業観察を行い適切な指導にあたる。 ・授業観察で把握できた教員の不適切な指導においては、スーパーバイザー、教科主任が担当教員に助言する他、改善がなされるまで次長、部長が指導にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察は授業参観や授業公開週間を通じてなされ、その結果スーパーバイザーや教科主任から担当教員に対し、指導上の留意点・改善点が詳細に伝えられた。その後改善されているか否かの確認を部長、次長が行った。 ・指導が不適切な教員に対して、授業内容や方法が全面的に改善されたとはいえない面も見受けられるが、生徒の授業アンケートが実施されたことと合わせて、スーパーバイザー、次長、部長からの指摘は授業改善に効果的に働いている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観日や授業公開週間だけでなく、普段の授業観察が定期的になされると良いと思われるが、そのためにはスーパーバイザーの持ち時間数がある程度調整する必要がある。 ・指導に問題が見受けられた教員に対しては、改善された内容を随時確認するとともに、教科内での研修や外部研修も活用して質の高い授業が生徒に提供できるようにする。 ・教員に対する適切な指導・助言の体制については、部長、次長、教科主任を中心とした指導及び教科内の教員同士の助言へと移行できるようにしていく。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・教育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。 ・必要に応じて外部の教育ボランティアの協力を得られる体制作りを検討し、その基礎を構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度初めて行われた、みどり祭の保護者企画は、保護者の自主的な活動が見られ、大変有意義なものとなった。 ・総合的な学習の時間において、外部の教育ボランティアを集める体制作りの検討や事前準備に入った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭の保護者企画は、今後も継続的に行うことで、保護者との連携を密にし、学校と保護者の協力体制を作る場として今後も有効である。 ・実際に外部の教育ボランティアの活用をするためには、今後更なる検討や準備が必要である。

10-②	・学校公開を定期的に行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や運動会等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。 ・保護者講座や保護者対象の立居振舞等を通して学校と保護者との関連を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観については、多くの保護者に幅広く学校を公開するために、曜日の設定や授業を自由に参観できるように工夫し実施した。 ・運動会では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。 ・保護者講座も、保護者と教員が楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観は学年が上がると、参加人数は減少傾向になっている。実際の生徒の学習の様子を見てもらう機会を増やすためにも、今後も継続した体制作りを行っていく。 ・保護者講座においては、よりニーズの高いものに特化し活性化していく。 ・次年度は学校開放デーを設けて広く公開する体制を整えたい。

10-③	・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者のニーズを聞き取り、現状把握を行い、内容を精査し反映させる。 ・保護者懇談会を開き、意見の共有や聞き取りをしやすい環境を提供する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートの実施をしたことで多様な結果が表れ、各教員の授業見直しやスーパーバイザーと協力した授業改善に取り組むことができた。 ・学校生活に関するアンケートの実施をしたことで、表面化されていないクラス内の傾向を知ることができ、学級担任のクラス運営に役立てることができた。 ・保護者懇談会を実施したことで、管理職が直接保護者と意見交換をすることができ、風通しが良くなるような土台作りができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートの内容を精査し、より学力向上やアクティブラーニングにつながる生徒の意見を聞き取り、これまで以上に生徒が主役となり、双方向性があり、活気のある授業展開の構築が求められている。 ・学校生活に関するアンケートを実施したことで、いじめの原因となり得る事象の発見や学級の生徒の思いにより気づきやすくなった。しかし、アンケート項目が多いことや生徒のアンケートに対する慣れによって、回答方法が雑になり、正しい実態評価につながるのかといった不安要素もある。そのため、アンケートの質問内容を精査し、効果的な質問へ絞る必要がある。 ・保護者懇談会のなかで、多くの意見が出ることでやや風通しがよくなっているが、参加者が固定化される傾向もあり、情報共有の難しさが課題である。

10-④	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における生徒の様子や現状を、教員と保護者が共有できる場として、保護者会や保護者懇談会を実施する。 ・三者面談を通じて、直接担任と生徒、保護者が話し合うことで、生徒の抱える問題や保護者の不安に迅速に対応する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に学校に来校してもらうことで、直接話をすることができ、情報の共有がよりスムーズにできている。必要に応じて、保護者会をクラス単位や学年単位で実施することによって効果をあげている。 ・三者面談は、直接担任と生徒、保護者が話し合える場として、重要である。しかし、限られた時間内であるため、すべての相談ができるわけではない。必要に応じ、別の日に担任以外にも学年主任やスーパーバイザー、カウンセラーを交えて実施するケースもある。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談においては、生徒、保護者と面談できる時間が限られている。また、教員間での情報を共有するための時間も不足している。学年会議を行い、情報共有に努めているが、さらなる取組が必要と思われる。 ・保護者懇談会は学年を超えて行われ、保護者にとっては、広く情報を得る機会であり、発言の場にもなっている。今後も保護者との意見交換の場として活用していく。

10-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達や公開を行う。 ・情報提供により、保護者が学校に関心を持ち、学校理解の一つになるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体の広報誌「学園だより」や、機関誌「緑苑」、進路指導部よりの「キャリア・進学だより」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」等を通じて行事予定や生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等を様々な形で提供した。 ・平成27年度は各学年が「学年だより」を定期的に発行し、生徒の日常の生活の様子や学年の担任からのメッセージなどを掲載した。情報共有の場として活用し、大変有意義なものとなった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の良い関係作りには、こうした細やかな情報提供が今後も大切となる。 ・「学年だより」は、各学年がその時々伝えたい情報を提供し、その特徴がよく出されていた。今後も継続していくことが保護者との良い信頼関係を築く基礎となる。掲載される内容は、保護者が知りたいと考えている情報を選び、タイミング良く行わなければならない。

10-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。 ・「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習で鎌倉の神社、仏閣、産業等について事前学習し、グループ活動を実施した。 ・赤い羽根募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。また、地域社会との連携の一つとして、児童文化部による「子どもフェスティバル」等の活動も意欲的に実施された。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・よりいっそうの地域社会との連携を強めるためには、企業や外部の専門家の導入が不可欠になると考えられる。また、生徒の自主的な活動を引き出すための、余裕を持った時間確保が必要である。 ・募金の意義や必要性を丁寧に説明し、より自主的な活動につなげていく必要がある。

10-⑦	・教育実習生の受け入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間や取組内容を確立させたいので、事前に十分に学校として指導を行い、自覚をもたせる。 ・生徒の前では、教員としての自覚をもち、自発的に行動できるよう担当教諭を中心に指導する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に、事前の面談を複数回行い、学生の意思確認をしている。特に受け入れ前には、次長から実習に向かう心構えを説明し、実習に臨ませている。 ・教科指導と学級指導だけでなく、生徒への接し方や実習日誌の記入についても、それぞれの担当教員が、適切に指導しているため、3～4週間で学生に大きな変化が見られる。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の説明で、実習の重要さと、それを乗り越えるだけの努力が必要であることを、十分に学生に説明する必要がある。時には、実習の受け入れについて慎重に検討することも必要であろう。 ・実習生を受け入れる人数については、担当教員1名につき実習生1名がきめ細かい指導をするための理想であるため、実習生の指導可能教員数を超える人数を受け入れることに対する対応については、今後の課題になる。

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、生徒数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な時期に学校説明会を実施し、校外説明会に参加することで、受験生と保護者が必要とする情報を伝える。 ・説明会等で配付する資料の内容は適切であるか配慮する。 ・ホームページへの基本的な情報の提供と更新を適切に行う。 ・生徒等の個人情報の保護に十分配慮する。 ・公立中学校・学習塾に対し本校の教育活動について適切に情報提供を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、学校で行う入試イベントの時期、テーマ、内容を決めて実施した。その際、校外説明会を活用してイベントの告知を行い、受験生・保護者の誘導につなげることができた。 ・各回で配付する資料については、事前に検討を重ね作成した。受験生・保護者にとって必要な情報（本校の教育活動の内容、入試関連データ等）を掲載し、理解を得られた。 ・ホームページについては、年度初めに基本的な情報を掲載し、以後は学校行事や日々の教育活動の様子を「ニュース&トピックス」という形で随時、発信した。 ・生徒の個人情報保護を念頭に、ホームページへの掲載や印刷物発行には、事前に生徒保護者に「承諾書」を配付し、理解・承認を得られ、円滑に進められた。 ・入試広報部の担当教員だけでなく、計画的に、中・高等部の全教員による中学校訪問（9月の解禁日以降1回）、塾訪問（年2回）を実施し、中学校及び塾の先生方に本校の教育活動について情報発信ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・受験生と保護者、中学校・塾の進路指導担当者が、本校の教育活動に対しての理解を深め、出願・受験・入学へとつなげていくためには、継続して、ダイレクトメール送付や公立中学校・塾訪問による告知・案内を行い、校外説明や学校説明会に誘導していくという流れを作る必要がある。この点については、平成27年度は徐々に告知から説明会への参加につながるようになってきた。今後は、受験から入学につながるよう、説明会自体のあり方についてふり返り、内容を十分に検討していく。 ・ホームページへの掲載内容について、教科・学年・部活動と分け、定期的に発信していけるよう、ニュース更新の担当者を明確にして対応していく。 ・中学校、塾訪問についての計画（時期・発信内容等）を立て、継続して実施していく必要がある。

12. 教育環境整備

12-①	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、美術・工芸室、調理室、被服室、第1・第2理科室などの各施設を有効に活用する。 北館特別教室に設置された電子黒板を有効に活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、美術・工芸室は音楽や美術の授業で必ず使用され、活用されていた。また、2つある音楽室も合唱の練習などの際に、パート別に分かれて2カ所とも活用された。 技術家庭科では、実習を多く行っているために、調理室や被服室も頻繁に活用された。 理科室も環境整備が整ったことにより使いやすくなり、実験などに多用された。平成26年度に第2理科室に設置されたドラフトチャンバーも実験の際に活用されていた。 平成27年度より設置された教室の電子黒板は、どの教科においても活用され、動画や画像やホームページなどの視聴覚教材を使用する際に活用されていた。また、パワーポイントを用いた授業や生徒の発表の際にも有効であった。本館に設置されている電子黒板については、英語会話の授業や、生物の授業で活用されていた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 施設面では非常に充実しているため、各教科での有効な活用がなされている。今後は教科を横断した活用や平成28年度より新しく始まる総合的な学習の時間での有効な活用方法を模索していく必要がある。 設置した電子黒板で使用したコンテンツを、教科内だけでなく、学校全体で共有し、より充実していくことが重要である。 北館には特別教室にしか電子黒板が設置されていないため、本館に移動して受ける授業があったため、高等部の各教室にも電子黒板の設置が望まれる。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・建物簡易診断を受診した。 ・経年劣化により老朽化のみられる空調機について、キャンパス内全体で交換を行う年次計画を立て、初年度として北館普通教室33台の交換を実施した。 ・南グラウンドテニスコート脇のトイレについて、便器の洋式化等改修工事を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。 ・空調機の交換を計画どおり進める。 ・南グラウンドの老朽化が進んでいる建物について、改修等の計画を立案する。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の目的に合う場所や教材・教具・図書などの教育環境を整備する。 ・パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室やマルチメディアラウンジでの電子黒板や情報処理室やマルチメディアラウンジでのパソコンも有効に活用されており、図書館では蔵書数や映像教材の更なる充実を図っている。 ・本館に設置された電子黒板では英語会話の授業や理科の授業で活用されており、自習室については、進路指導部が担当し活用している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや電子黒板については、次年度、設置台数が増える見込みである。 ・教育活動でのパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法は更なる工夫や開発が可能である。また、それらを共有するためのシステムづくりを進めていくことが必要である。

13. 事務支援体制

13-①	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。 ・高等部の募集力向上に向けた改革における支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。 ・高等部 入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。特に募集人員充足のに向けた以下の活動を目標とした。 ①学校案内制作 ②ホームページ制作 ③学校説明会運営 ④広報媒体等への交渉 ⑤他校入試・広報関連の情報収集 ⑥学習塾訪問頻度向上 ⑦校外進学フェア運営等の支援活動。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・平成27年度より中・高等部カリキュラムが週5日制から週6日制に変更されたことに伴い、平成26年度まで休みであった土曜日の事務支援を新たに行った。 ・これまで経理部で作成していた業者支払いの勘定伝票や、扱いを厳格化するために預り金についての新たな帳票を支援室で作成するようになり、事務処理の合理化・厳格化に貢献している。 ・学校案内制作の支援を行った。コンサルティング会社のアドバイスと、高等部入試・広報担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。パンフレットとしての質の向上を図った。 ・ホームページ制作会社の移行支援を行った。運営コスト、コンテンツ更新速度等、あらゆる角度から研究し業者の選定を行った。結果、高等部の教育活動、生徒の学園生活等を閲覧者に対してタイムリーに、かつ分かりやすく提供することが可能となった。 ・広報ツールの制作支援を行った。チラシ・交通広告等の制作費、及び媒体使用料等の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られ、告知頻度の向上につなげた。 ・塾訪問頻度の向上を図った。高等部長、並びに担当教員と連動した学習塾に対する訪問頻度を向上した。告知活動の充実を図り、今後の募集力増強に寄与した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛けたい。 ・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図りたい。 ・高等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。 ・学習塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ高等部の優位性を強く発信する。同様に、中学校訪問時における高等部認知度の向上を図る。

14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているか。 ・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において当該年度に実施した教育内容について、振り返りを行うことで、次年度に生かせるように自己点検・評価を実施する。 ・自己点検・評価報告書の作成にあたっては、分掌主任を中心に中・高等部の全教職員で行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各点検項目にしたがって分掌主任や教科主任を中心に、年度に実施したすべての教育内容について細部にわたりその内容や成果、達成状況を点検することで、次年度の改善につなげることを目指した。 ・報告書の作成においては部長・次長と分掌主任を中心に教科主任や学年主任からおろす形で、全教員が振り返りをする中で次年度の工夫や改善に生かすことができるようにした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者には年度末までに執筆を依頼しているが、成績処理と残務整理に加え、次年度への準備も入る時期であるため、点検項目などは年度の始めに決定していると、担当者が実施済のものから点検・執筆することができる。

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価の結果を受けて、改善すべき点は次年度に生かす。 ・取組内容に関して成果が表れているものについては、さらに工夫を凝らして次年度に実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・成果に結びついていない、又は目に見える結果が表れていない教育内容については十分な検討を重ねたうえで、代替策を講じることにつながっている。 ・教育内容について細部にわたりその内容の一つ一つを点検することで、明らかに次年度の教育活動に生かすことができている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の中にはすぐには結果には表れないものがあり、長い期間を経て成果に結びつくものもあるため、引き続き次年度も実施すべき教育内容か否かは十分吟味を重ねることが必要である。